

50包藏地 (本郷下海戸B遺跡)

藤岡特別支援学校体育館整備に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県教育委員会事務局管理課
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

50包蔵地 (本郷下海戸B遺跡)

藤岡特別支援学校体育館整備に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県教育委員会事務局管理課
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書では令和2年度藤岡特別支援学校体育館整備に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告します。群馬県立藤岡特別支援学校は、平成26年4月1日に群馬県立みやま養護学校藤岡分校として藤岡市本郷に開校されました。平成27年4月1日からは群馬県立藤岡特別支援学校として単独校化され、平成30年4月1日には高等部も開設されました。この藤岡特別支援学校体育館整備事業により、高等部棟と小学部・中学部棟の間にバスケットやバレー・ボールなどができるホールやステージを中心とする体育館が整備されることとなりました。

発掘調査が実施されました当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である50包蔵地内に立地し、国指定史跡「本郷埴輪窯址」の北西430mほどに位置しております。また隣接する小学部・中学部棟敷地からは古墳時代から平安時代にいたる竪穴建物が検出され、本郷下海戸遺跡として知られています。

本書で報告します50包蔵地(本郷下海戸B遺跡)は、令和2年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。発掘調査では、平安時代の土坑と中世の竪穴状遺構や水田などが発見され、古代から中世にいたる人々の暮らしの様子の一端が明らかになりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県教育委員会、群馬県地域創生部、藤岡市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が藤岡地域における歴史の解明に広く役立てられることを念じて、序といいたします。

令和4年2月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

- 1 本書は、令和2年度藤岡特別支援学校体育館整備に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施された「50包蔵地(本郷下戸B遺跡)」の調査成果をまとめた発掘調査報告書である。報告書作成は令和3年度 県立藤岡特別支援学校体育館整備事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として実施された。
- 2 発掘調査地は群馬県藤岡市本郷451-3, 451-5, 452-4, 452-5, 453-2, 454-1に所在する。
- 3 事業主体　　群馬県教育委員会事務局管理課
- 4 調査主体　　公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の期間と体制
- | | |
|----------|---------------------|
| 発掘調査履行期間 | 令和2年12月1日～令和3年3月31日 |
| 調査期間 | 令和3年1月1日～令和3年1月31日 |
| 調査担当 | 飛田野正佳、木村　收 |
| 遺跡掘削工事請負 | 株式会社　歴史の杜 |
| 地上測量委託 | アコン測量設計株式会社 |
- 6 調査面積　　1343.86m²
- 7 整理作業履行期間　　令和3年11月1日～令和4年2月28日
- | | |
|------|----------------------|
| 整理期間 | 令和3年11月1日～令和3年12月31日 |
|------|----------------------|
- 8 本書の作成分担
- | | |
|--------|----------------------|
| 編集 | 佐藤元彦 |
| デジタル編集 | 齊田智彦 |
| 遺構写真撮影 | 発掘調査担当者 |
| 遺物観察 | 古代遺物:神谷佳明　中近世遺物:大西雅広 |
| 遺物写真撮影 | 佐藤元彦 |
- 9 発掘調査及び報告書作成には、群馬県教育委員会、群馬県地域創生部、藤岡市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに
関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。
- 10 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　　例

- 1 本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため一部を除き発掘調査時の名称を踏襲した。ただし、編集に至るまでの過程を含み下記の遺構についてはその名称を変更した。
- (1号)畦畔C → 2号畦畔C、(1号)畦畔D → 2号畦畔D
- (1号)畦畔E～G → 畦畔土壤E～G、(1号)畦畔(谷地形部分) → 畦畔土壤H
- 2 本書に用いた座標・方位はすべて世界測地系(測地成果2011)、平面直角座標系第IX系による。
- 世界測地系による当所の所在は、北緯36度14分01秒、東経139度04分40秒であり、当所における座標北と真北との偏差は+0度26分47.54秒、磁北線の偏角は7度30分である。
- また、遺構図中の十字記号は世界測地系(測地成果2011)、平面直角座標系第IX系に基づく基準点を示す。X値とY値

- の整数部末尾3桁を付記した。
- 3 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。
- 4 遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「L=○.○m」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦:横:面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長:短:面積の順での記載を原則とした。
- 5 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を〇付きで表記した。
- 6 遺構面積の算出に際しては、縮尺1:20の平面図を計測に用いることとした。
- 7 本書の個別遺構図版の縮尺は以下を基本とする。
溝、竪穴状遺構 1:60。水田 1:100。土坑、ピット 1:40。
- 8 本書の遺物図版縮尺は1:3を原則とした。
- 9 本書における遺構略称は以下のとおりである。
ピット P
- 10 本書で使用したトーンは以下のとおりである。
搅乱 
- 11 本書における土層注記及び遺物觀察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。
なおデジタル現像等のデジタルデータの処理に際して、ICCプロファイルなどICCの規定に基づく色管理はなされていないので、編集時点において被写体本来の色調や色相は担保されない。
- 12 本書で使用した地形図、地勢図、地質図は以下のとおりである。
国土地理院 1:25,000地形図「藤岡」平成30年8月7日発行
国土地理院 1:200,000地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行
国土地理院 1:200,000地勢図「長野」平成24年5月1日発行
地理院地図(電子国土Web)<https://maps.gsi.go.jp/#17/36.232829/139.078926&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k010u0t0z0r0s0m0f1>
産業技術総合研究所地質調査総合センター、シームレス傾斜量図
<https://gbank.gsj.jp/seamless/slope/slope.html?center=36.2347,139.0064&z=13&opacity=1&terrain=mixed>
産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)(2020)20万分の1日本シームレス地質図2020年4月6日版、産業技術総合研究所地質調査総合センター
- 13 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。(但し小林古墳群を含め、これに含まれる遺跡・遺構を除く。)
尾崎喜左雄1958「古窯の研究 - 群馬県本郷埴輪窯址発掘報告 -」『風土』第4巻2号
柴田常恵1906「埴輪の製造地」『東京人類學會雑誌』246号
藤岡市教育委員会2021「笛川沿岸地区遺跡群(本郷下郷C遺跡、本郷下郷B遺跡B地点、本郷山根B遺跡、本郷山根B遺跡B地点)発掘調査報告書」藤岡市教育委員会
藤岡市教育委員会2002「波場遺跡」藤岡市教育委員会
藤岡市教育委員会2014「本郷下海戸遺跡」藤岡市教育委員会

目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第1章 調査経過と調査の方法			
第1節 調査に至る経緯	1	第2節 水田面	20
第2節 調査の経過と方法	1	1 水田面の概要	
		2 検出された遺構	
第2章 周辺の環境		第3節 水田面下	24
第1節 地理的環境	5	1 水田面下の概要	
第2節 歴史的環境	7	2 検出された遺構	
第3章 確認された遺構と遺物		第4節 出土遺物	29
第1節 調査区の概要と基本土層	15		
1 調査区の概要		写真図版	
2 基本土層		抄録	
		奥付	

挿図目次

第1図 道跡の所在	2	第11図 基本上層2	20
第2図 調査区の所在	3	第12図 1号溝	21
第3図 調査区設定	4	第13図 水田1	22
第4図 調査区周辺の地形	5	第14図 水田2	23
第5図 調査区周辺の地質	6	第15図 1号窓穴状遺構、2号溝	25
第6図 調査区周辺の道跡	8	第16図 上坑	26
第7図 水田面(1面)	16	第17図 ピット	27
第8図 水田面下(2面)	17	第18図 遺構外遺物出土地点	28
第9図 グリッド配置	18	第19図 出土遺物	29
第10図 基本上層1	19		

表 目 次

第1表 道跡一覧	10	第3表 未掲載遺物	30
第2表 遺物観察表	30		

写真目次

PL. 1

- 1 調査区全景(東から)
- 2 調査区全景(北から)

PL. 2

- 1 調査区北部(南から)
- 2 1号溝(東から)
- 3 1号溝上層断面A(東から)
- 4 1号溝上層断面B(東から)
- 5 1号溝上層断面C(東から)

PL. 3

- 1 水田(南から)
- 2 1号畦畔・2号畦畔(東から)
- 3 1号畦畔(南東から)
- 4 1号畦畔上層断面A(西から)
- 5 1号畦畔上層断面B(北から)

PL. 4

- 1 2号畦畔(東から)
- 2 2号畦畔上層断面C(南から)
- 3 畦畔土壤(東から)
- 4 畦畔土壤E・F(東から)
- 5 畦畔土壤G・H(北から)

PL. 5

- 1 畦畔土壤E上層断面(南西から)
- 2 畦畔土壤F上層断面(西から)
- 3 畦畔土壤G上層断面(南西から)
- 4 畦畔土壤H上層断面(北西側、西から)
- 5 畦畔土壤H上層断面(中央、西から)
- 6 畦畔土壤H上層断面(南東側、西から)
- 7 1号豊穴状遺構(西から)
- 8 1号豊穴状遺構遺物出土状態(東から)

PL. 6

- 1 1号豊穴状遺構土層断面(北側、西から)
- 2 1号豊穴状遺構土層断面(南側、西から)
- 3 2号溝(南西から)
- 4 2号溝上層断面(南から)
- 5 1号土坑(西から)
- 6 1号土坑上層断面(北から)
- 7 2号土坑(南西から)
- 8 2号土坑上層断面A(南から)

PL. 7

- 1 2号土坑上層断面B(西から)
- 2 1~3号ビット(南から)
- 3 1号ビット(南から)
- 4 1号ビット上層断面(南から)
- 5 2号ビット(南から)
- 6 2号ビット上層断面(南から)
- 7 3号ビット(南から)
- 8 3号ビット上層断面(南から)

PL. 8

- 1 2面Gセクション遺物出土状態(南西から)
- 2 2面Gセクション出土遺物(南西から)
- 3 粘質黒色土分布範囲(東から)
- 4 粘質黒色土分布範囲(北東から)
- 5 粘質黒色土分布範囲出土遺物(西から)
- 6 北側標準上層(南から)
- 7 南側標準上層(西から)
- 8 南側標準上層(北から)

PL. 9

- 出土遺物

第1章 調査経過と調査の方法

第1節 調査に至る経緯

本書は、令和3年度 県立藤岡特別支援学校体育館整備事業に伴う埋蔵文化財の整理事業により実施された、令和2年度藤岡特別支援学校体育館整備に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告するものである。

群馬県立藤岡特別支援学校は、特別支援学校未設置地域の解消のために、群馬県立みやま養護学校藤岡分校として平成26年4月1日藤岡市本郷に開校され、平成27年4月1日からは群馬県立藤岡特別支援学校として単独校化された。平成30年4月1日からは高等部も開設されている。令和2年8月31日の高等部校舎完成に続き、小学部・中学部棟と高等部・事務部棟の間の、篠川沿いの土地にバスケットやバーボールなどができるホールやステージを中心とする体育館を整備することになった。国指定史跡「本郷埴輪窯址」の北西430mほどに位置する体育館予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である50包蔵地内に立地している。また隣接する小学部・中学部棟の建設に際して、古墳時代から平安時代にかけての集落が検出されていることなどから、群馬県地域創生部文化財保護課(以下、保護課)による試掘・確認調査が行われることとなった。

令和2年11月に実施された保護課による試掘・確認調査の結果、中世の溝やピットが確認された。また、古墳時代から奈良・平安時代に帰属すると考えられる土器も出土した。この試掘・確認調査の結果により本調査が必要と判断され、保護課による調整を経て、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が本調査を実施する事となった。

第2節 調査の方法と経過

発掘調査は令和3年1月1日から同年同月31日を調査期間として実施された。

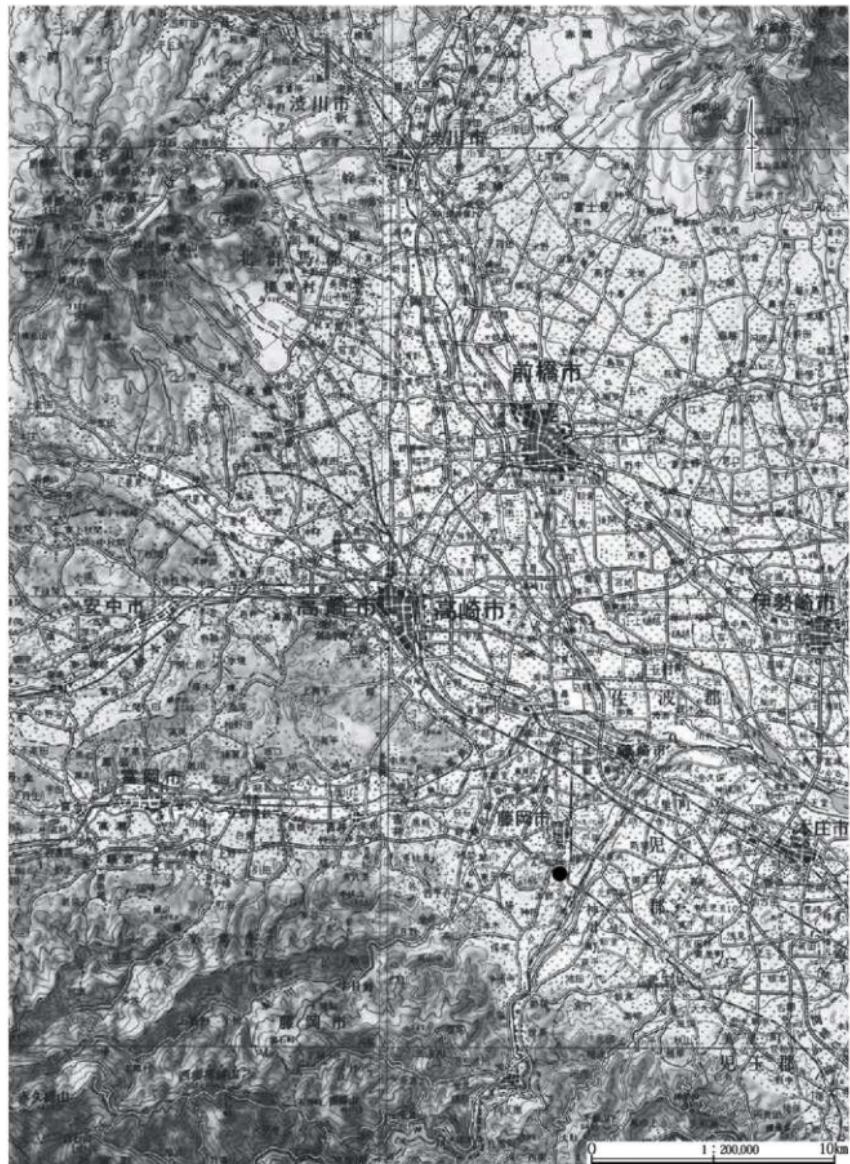
発掘調査は、まず建設機械による表土掘削から始まり、その後を発掘作業員(以下、作業員)によるジョレンを用いた平面精査を行っていった。ついで発掘調査担当

者(以下、担当者)が遺構確認を行い、人為的な掘り込み箇所を遺構と認定し、発掘調査を開始した。確認された遺構を掘り下げる作業や埋没土の堆積状況を知るための土層観察用のベルト設定などの諸作業においては、担当者が遺跡掘削技術者(以下、代理人)に作業を指示し、代理人の下で作業員がジョレンや手シャベルを用いてこれを行った。

遺構掘り下げ作業は、出土した遺物や埋没土層観察用ベルトを残した状態とし、埋没土や遺構および遺物出土状態の写真撮影作業などは担当者が行った。記録作成のための遺構断面図、遺構平面図、出土遺物図等の各種図化作業は測量業者にこれを委託した。また高所から撮影する必要のある、遺跡全体の全景写真撮影に際しては、高所作業車を用いて担当者がこれを行った。なお、記録写真撮影に際しては2600万画素の一一眼レフ・デジタルカメラと6×7判の一一眼レフ・フィルムカメラを用いた。

今回の発掘調査で発見された遺構は、平安時代の土坑と中世の竪穴状遺構、溝、水田などである。また遺構そのものではないが、古墳時代の土器を含む遺物包含層の調査も実施した。なお、調査区内においてローム層の堆積が認められなかったため、縄文時代以前の遺物(石器)の有無を確認するための旧石器確認トレンド調査は実施していない。

今回の調査区であるが、東側には道路を挟んで藤岡特別支援学校小学部・中学部があり、また西側には篠川と道路を挟んで同高等部が存在している。さらに、同高等部の南側には道路を挟み藤岡市立東中学校が設置されている。特別支援学校高等部生徒は、担当教諭に引率されて、小学部・中学部棟と高等部・事務部棟との間を随時行き来し、また東中学校生徒は調査区に隣接する道路を通学路として利用していたため、調査区周辺に対する安全面での対策が必要となつた。そこで、発掘調査場所の全周145mを安全柵で囲うこととし、児童・生徒が誤つて発掘調査場所に入ることがないよう配慮し、安全対策に万全を期した。



(国土地理院20万分の1地図「長野」「宇都宮」を編集・加工。)
第1図 遺跡の所在

発掘調査日誌抄録

令和3年

1月5日(火)調査区設定。現場事務所用地整備。

1月6日(水)調査区安全設備設置工事着手。

表土掘削、土砂搬出開始。

1月7日(木)調査区安全設備設置工事終了。

表土掘削、土砂搬出継続。遺構確認。

1月12日(火)表土掘削、土砂搬出終了。

遺構確認継続、標準土層調査。

1月14日(木)ジョレンによる遺構確認。遺構精査着手。

1月18日(月)グリッド調査により2面遺構確認着手。

1月21日(木)高所作業車を用いた全景写真撮影。

1月26日(火)写真撮影、平面測量。埋め戻し開始。

1月28日(木)埋め戻し終了。機材・設備撤去継続。



第2図 調査区の所在



第3図 調査区設定



調査区より北を望む

第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

50包蔵地(本郷下海戸B遺跡)（以下、本調査区）は群馬県藤岡市本郷に所在する。藤岡市は関東地方の北西部に位置する群馬県の西南部にあり、その市域は東西に細長く延びている。藤岡市の東は神流川を隔てて埼玉県児玉郡に接し、北は烏川・鏑川を境に高崎市に接する。また南西部は北に高崎市吉井町、甘楽郡甘楽町と下仁田町、南に多野郡神流町が位置し接している。

市の北部には、高崎線(高崎市高崎駅－埼玉県大宮駅)と八高線(高崎市倉賀野駅－東京都八王子駅)が存在し、また国道17号(東京都日本橋－新潟県新潟市)が高崎線に並走している。かつて中山道の脇往還として知られていた上州姫街道は国道254号(東京都文京区－長野県松本市)と名をかえて、藤岡市内を横切り西進している。近年、関越自動車道(東京都練馬区－新潟県長岡市)と上信越自動車道(藤岡市藤岡－新潟県上越市)の両線が開通したことにより、市内北部にはこのジャンクションも設けられている。

藤岡市は関東山地の北縁の一部と関東平野の北西部の一部を占めており、市域の多くは山がちであり、平坦部は藤岡台地を中心とする市北部の一画に限られている。市域南半を占める関東山地・秩父山地、その北に丘陵地帯と河岸段丘と続き、ついで利根川沖積低地にいたる南北低地の地形となっている。また主な河川が市域を囲うように存在している。市の西側に位置する鏑川は北流して市域北辺を東流する烏川に注いでおり、この烏川と市の東側を北流する神流川は、市外で合流して利根川に注いでいる。

藤岡市周辺は中生代ジュラ紀の付加体から新生代第四紀完新世にいたる多くの地層がみられる。

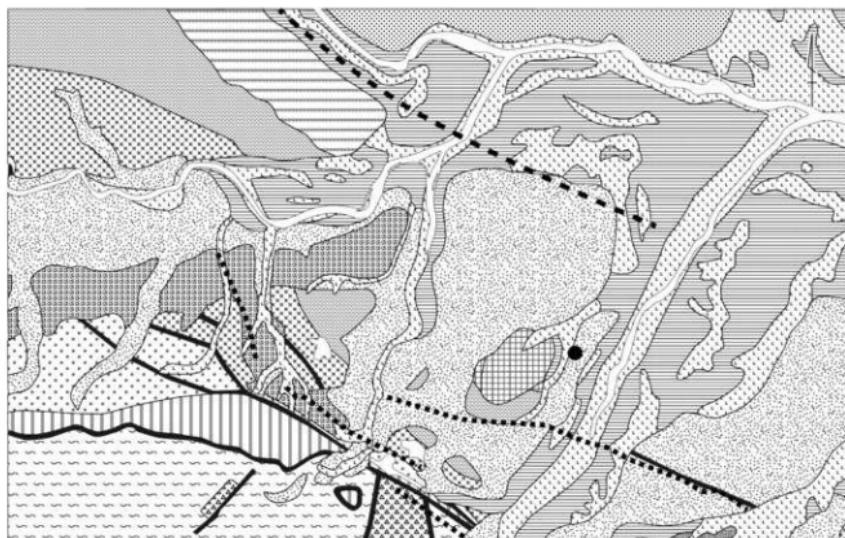
市域南部の山地部は関東山地北東端を構成する上武山地の御荷鉢山系であり、中生代ジュラ紀の付加体や变成岩から構成された標高1000mを超える山岳地帯である。山地部に存在する三波川变成帶の結晶片岩・綠色岩類の存在は、この地の特徴とされている。

市域北部は新生代第四紀の堆積物が多数を占めるが、山地部との境に位置する牛臥山地や岩野谷丘陵、多野丘



〔産業技術総合研究所地質調査総合センター、ジムレス斜面傾斜調査システム(gisok.jp/jmsurface/slope/slope.html?center=09.2347,139.004&z=13&opacity=1&terrain=normal)を使用〕

第4図 調査区周辺の地形



「産業技術総合研究所、20万分の1日本シームレス地質図(詳細版)、データ更新日:2020年4月6日)、<https://gbank.gsj.jp/seamless/>」を使用

凡例

H_sad [■■■] 堆積岩、新生代 第四紀 完新世
谷底平野、山間盆地、河川、海岸平野堆植物

N1_sbs [■■■■■] 堆積岩、新生代 新第三紀 中新世
後期ランギアン期～トートニア期
海水成層ないし海成・非海成混合層砂岩、
砂岩泥岩互層ないし砂岩・泥岩

Q32-33_std [■■■■] 堆積岩、新生代 第四紀 完新世
自然堤防堆植物

N1_soss [■■■■] 堆積岩、新生代 新第三紀 中新世
バーディンガリアン期～前期ランギアン期
海成層砂岩

Q32-33_std [■■■] 堆積岩、新生代 第四紀 後期更新世中期～
後期更新世後期
段丘堆植物

N1_soss [■■■■] 堆積岩、新生代 新第三紀 中新世
バーディンガリアン期～前期ランギアン期
海成層砂岩泥岩互層

Q31_std [■■■] 堆積岩、新生代 第四紀 後期更新世前期
段丘堆植物

N2_sos [■■■■] 堆積岩、新生代 新第三紀 中新世
後期ランギアン期～トートニア期
海成層泥岩

Q3_v_ad [■■■] 次成岩、新生代 第四紀 後期更新世
火山岩、岩屑なだれ堆植物

K122-Pg12_nsce_bg [■■■■] 变成岩、中生代 前紀白亜紀アルビアン期～
新生代 古第三紀 晩新期 セラディアン期
泥質片岩。高P/T型広域变成岩 ざくろ石帶

Q22_std [■■■■] 堆積岩、新生代 第四紀 後期チハニアン期
段丘堆植物

K122-Pg12_nsca_bg [■■■■] 变成岩、中生代 前紀白亜紀アルビアン期～
新生代 古第三紀 晩新期 セラディアン期
苦鉄質片岩。高P/T型広域变成岩 ざくろ石帶

N3_snc [■■■■] 堆積岩、新生代 新第三紀 中新世
ヌッシニアン期～鮮新世
非海成層砂岩

066-01 [■■■] 高崎活動セグメント(深谷起裂断層)
066-04 [■■■■■] 平井活動セグメント(深谷起裂断層)

第5図 調査区周辺の地質

陵、独立丘陵である庚申山丘陵のように新生代新第三紀の堆積岩から構成される丘陵も存在する。なお、本調査区は独立丘である庚申山丘陵の東麓を北流する笹川沿いに位置している。

市域北端の低地帯と市域南部の山地に挟まれた場所に藤岡台地と呼ばれる一画が存在する。この一画は神流川や鮎川に由来する扇状地性の低位段丘とされる。この台地を覆うローム層の下には水成とされる粘土層が存在し、藤岡粘土層と呼ばれ、古くから地場産業である瓦生産の原料となっている。なお、市域北端の沖積低地帯は北藤岡低地と呼ばれ、三方を囲む篠川や鮎川、烏川、神流川による浸食作用で形成された氾濫原である。

市内の平坦部に人手によらない池や沼はほんなく、すべからく灌漑用の貯水池やため池であったと伝えられる。近年になり神流湖をはじめとする三名湖や竹沼などの大規模な貯水池ができたため、永く続いた溜池もこの地から姿を消つつあるという。

第2節 歴史的環境

本調査区の所在する藤岡市周辺の地理的環境・歴史的環境については末尾に付した参考資料に詳しいので、本節では調査区周辺の主な遺跡分布図(第6図)と一覧表(第1表)を掲載し、当地域の概要を記載する。なお遺跡分布図に表示した各包蔵地の範囲は「マッピングぐんま遺跡マップ(<https://www2.wagmap.jp/pref-gunmaiseki/Portal>)」に掲示された遺跡区分に基づくが、個々の調査遺跡は分布図の包蔵地範囲内に包されるものが大多数を占めるため、当該遺跡の分布図上の掲載番号(図番号)と一覧表内の個々の掲載番号(表番号)を、この順番で遺跡名に続く()内に付記した。なお包蔵地内に位置しない遺跡や本節で取り上げた遺跡などについては分布図に個別に掲示した。

1 旧石器時代

緩やかな丘陵上や藤岡台地の北東部の崖線直上などに遺跡が立地する傾向が指摘されており、遺跡は安定した風成ロームの堆積がある土地から検出されるとする。丘陵や中位段丘に占地する遺跡で、中部から上部ローム層からの出土事例としては、藤岡北山遺跡(59-139)や藤岡

北山遺跡(59-140)などがある。藤岡北山遺跡は西毛地域で初めて検出された旧石器時代の大規模遺跡であり、3万年前のAT火山灰下から台形様石器やナイフ形石器を主体とした、多様な石材を用いた石器群と環状ブロックが検出されている。また藤岡北山遺跡はAT火山灰下位の3万年以前のローム層から、ナイフ形石器文化から槍先形尖頭器文化にいたる3面の文化層が検出されている。浅間山の火山活動の影響によるものか、特に西毛地域において遺跡数が激減したとされるナイフ形石器文化後半から槍先形尖頭器文化にかけての時期の遺跡として山間遺跡(5-5)が知られている。

2 繩文時代

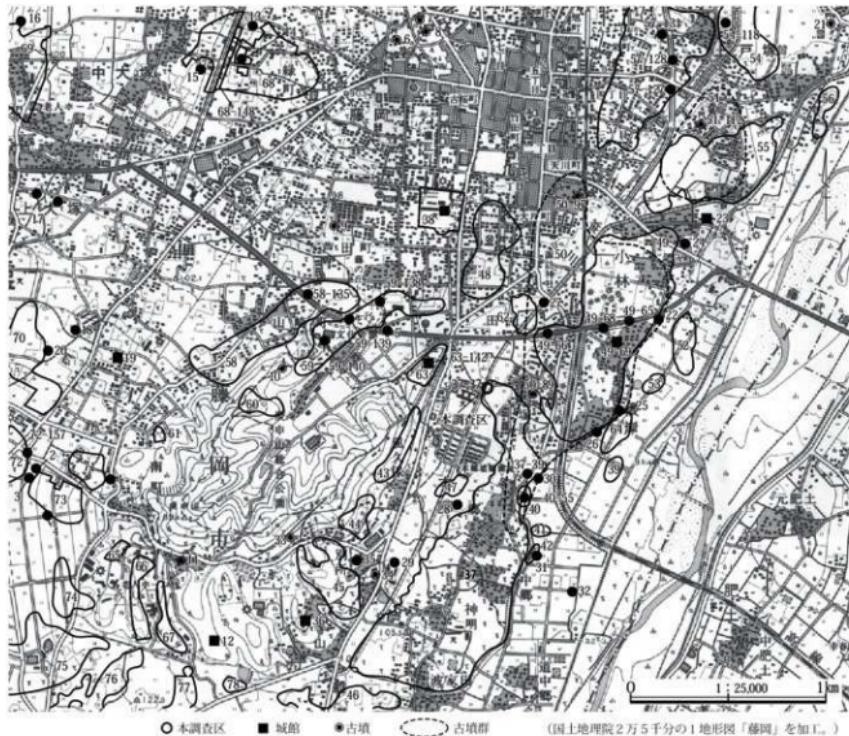
山間部や丘陵部を中心に集落が形成され始め、その後台地周縁部や沖積低地の自然堤防上に集落域が拡大していく傾向が指摘されており、多くの遺跡が台地の縁辺から確認されている。草創期から早期前葉においては、撫糸文系の土器が出土した藤岡北山遺跡や有茎尖頭器の出土した藤岡北山遺跡のほか、山間遺跡、上戸塚正上寺B遺跡(54-118)などが知られている。なお早期後葉から前期前葉にかけて、藤岡台地に遺跡は希薄で、多くは独立丘陵上や鮎川左岸の段丘上または右岸の微高地などにみられるという。前期前葉には藤岡台地の北東縁部に限定されていた集落の分布範囲も、前期後葉には平坦な地域への拡大が認められるとされる。前期後葉には、株木遺跡(57-127)、株木B遺跡(57-128)、上戸塚西原II遺跡(57-131)など台地東側周縁部に集落が展開し、さらには北側周縁部にまで活動領域が拡大される。中期の全国的な傾向と相連して、藤岡市域では中期前葉の遺跡は少なく、中期後葉になってようやく集落は爆発的に増加するとされる。台地北側周縁部を中心に、後期まで継続する大規模な集落が形成され、また沖積低地の自然堤防上でも集落域は拡大している。なお庚申山丘陵は藤岡市内におけるやや拠点的な集落の所在地とされ、藤岡北山遺跡、藤岡北山遺跡、光徳寺裏山遺跡(59-138)などが知られている。後期には、山間遺跡のような丘陵上の小規模な集落も營まれるが、あくまでも集落の中心は晩期まで遺跡が継続する藤岡台地北側周縁部とされる。これらの遺跡からは、西日本や北陸との交流をうかがわせる土器も出土している。

3 弥生時代

藤岡市域では、前期から中期前葉にかけて沖積低地の自然堤防上の遺跡からわずかに土器が検出される程度とされる。こうした状況下にあって、国外ではあるが埋設土壙27基と多量の石器を作う包含層が検出された沖II遺跡(藤岡市立石)は特筆される。なお、中期の後半になり市域南部の丘陵地帯に谷地水田という限定的な生産基盤が出現するが、安定した大集落の形成には至らず、藤岡市域は水田を基盤とする集落の成立には不向きな土地とされる。後期から末期にかけの時期、稻作に適していると思われる市域北部の沖積地ではなく、丘陵部である藤岡平の南西部にあたる平井地区への遺跡の集中が指摘されている。

4 古墳時代

集落が安定して存在しはじめるのは中期からであり、後期になってようやく集落域が拡大するとされる。なお古墳時代から成立する遺跡は鮎川や神流川に注ぐ小河川沿いに点々と分布し、弥生時代後期からやや広い沖積地沿いに成立していた集落は、古墳時代から平安時代まで継続して遺跡が営まれるという傾向が指摘されている。また前期の遺跡は小規模で分散する傾向にあり、神流川左岸のほか、藤岡台地の縁辺部や鮎川左岸の微高地を中心に立地するとされる。台地上の上戸塚正上寺B遺跡や塚原遺跡(49-66)、国外ではあるが自然堤防上の森泉A遺跡(藤岡市森)などで集落が確認されており、森泉A遺跡や塚原遺跡では方形周溝墓も検出されている。中期に



第6図 調査区周辺の遺跡

なると、集落は鮎川左岸の段丘上などにも広がりをみせている。調査区周辺では戸塚正上寺B遺跡などが集落の中心となり、後期までその領域を拡大させるとされる。このほか舞臺遺跡(49-65)や塙原遺跡、5世紀後半から6世紀前半の宮下II遺跡(40-55)、5世紀から6世紀後半にかけての大集落である堀ノ内遺跡群(49-68)などで集落が確認されている。なお、後期の群集墳が形成される時期になると、日野地区の山間部を除く市内各所に集落が形成されるようになり、特定の職業にかかわる集落の発生もこの頃とされる。調査区周辺では史跡である本郷埴輪窯址(37-39)が著名であり、およそ250m南に位置する土師神社(藤岡市本郷)の存在とともに土師部の集落が想定されている。

藤岡地域での古墳築造は古墳時代前期末の4世紀後半からとされ、初現は神流川流域の神田・三本木地区とされる。なお調査区周辺では浅間神社古墳(8-8)が前期の古墳と推定され、ついで底部穿孔土器を出土した堀ノ内遺跡群の前方後円墳や、彷彿鏡や石製模造品を出土した戸塚古墳群の稲荷塚古墳(藤岡市上戸塚)が続いている。中期には古墳築造の中心は鮎川領域に移り、5世紀前半に市内最大級の白石稻荷山古墳と十二天塚古墳・十二天北古墳、5世紀後半には舟形石棺を有する宗永字裏東塚古墳が出現し白石古墳群(藤岡市白石)を形成し、7世紀まで継続して古墳が作られている。6世紀に入り新らしい集落の形成が進むとともに、藤岡台地では広範囲に古墳が築造されるようになり、調査区周辺では戸塚神社古墳(51-112)を中心とする野見塚古墳群(51)、模様積石室の豊符殿古墳(50-97)や本郷二子山古墳(50-89)が著名な小林古墳群(50)が形成されている。

5 古代

古代になると律令制の下、藤岡市域は上野国綿野郡に編入され、市域北部の温井川右岸の沖積低地には官衙の存在も推定されている。この地域には古墳時代後期から建物が密集しており、奈良時代の集落の中心地とされる。なお藤岡台地では掘立柱建物群が検出される事例が多いとされる。株木遺跡では竪穴建物を壊して新たに版築し、礎石が置かれるなど郡家級の建物の存在が指摘されている。平安時代になると新しい集落が沖積低地の自然堤防上に点在するようになり、東濃窯産須恵器の完形

品が土坑墓から出土した舞臺遺跡や国外ではあるが奈良三彩が出土した中I遺跡(藤岡市中I)などが注目されている。さらには白塙道南遺跡(58-135)をはじめ多くの遺跡から鍛冶関連の遺構や遺物が検出されており、藤岡台地上に想定される寺院や官衙に供する器材や農工具類の生産・加工が想定されている。また河川沿いや藤岡台地北側の低地に位置する多くの遺跡から平安時代の水田が検出されており、水田と併存する形で畠が確認される事例も報告されている。なお丘陵上に立地する山間遺跡において検出された、As-B降下直前の小区画水田も衆目を集めている。

6 中近世

天承元年(1131年)藤岡台地の南側に、秩父氏の支族である高山氏によって、伊勢神宮の莊園として高山御厨が成立し、三名川の中流域に拠点が置かれ高山城(藤岡市金井)などが築かれた。また鎌倉幕府成立後、関東では鎌倉と各地を結ぶ道路網の整備がすすめられており、調査区周辺でも鎌倉街道に隣接する中世の溝が傳鎌倉街道関連遺跡(72-157)で調査されている。なお中大塚A遺跡(13-13)からAs-B軽石降下以前の道路状遺構、中大塚遺跡(68-148)では中世の道路状遺構が検出されており、鎌倉街道から派生した枝道である可能性を指摘されている。12世紀から15世紀にかけて「高山」を中心として栄えた当地であるが、15世紀中頃以降は関東管領の山内上杉氏の影響下におかれ、山内上杉氏の居城平井城(藤岡市西平井)とそれを取り巻く砦や要害城などの存在が知られている。なお調査区周辺には、平井城の支城と推測されている大神宮山の砦(63-142)や、鎌倉末期から上野国大塚郷の地頭職であった小林氏の居館とされる小林氏館(23-23)、武田信玄先鋒の芦田氏により後北条氏対策として着手されたものの築城半ばにして放棄されたとされる岸根築城遺構(49-69)などが存在する。

参考資料

- 小島敦子1987「1~4遺跡の立地と周辺の遺跡分布」「本郷尺地遺跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp. 7-8
- 藤岡市教育委員会2000「藤岡市史 通史編 原始・古代・中世」藤岡市宮田忠洋2016「第II章 地理的環境と歴史的環境」「C57a 小野地区 水田遺道遺跡下B地点、C57b 谷地C遺跡B地点」藤岡市教育委員会pp. 2-7
- 土井昭順2021「第Ⅲ章 道路の環境」「E33 神田神明B遺跡C地点」藤岡市pp. 3-5
- 春里桃子2021「第Ⅲ章 道路の環境」「F49三ツ木東原C遺跡、D57上落合七隅遺跡」藤岡市教育委員会pp. 5-12

第2章 周辺の環境

第1表 遺跡一覧

図	地図掲載遺跡	所在地	表	表掲載遺跡	所在字	旧石器	縦文	弥生	古墳	古代	中世	近世	摘要	文献
1	藤岡平地区水田址上天水地点	藤岡市船川	1	藤岡平地区水田址 上天水地点	船川				○				平安水田	20
2	東平井遠東遺跡	藤岡市東平井	2	東平井遠東遺跡	東平井	○			●	○			集落。その他	20
3	東平井藤岡道A遺跡	藤岡市東平井	3	東平井藤岡道A遺跡	東平井				●	●			集落	20
4	東平井天水遺跡	藤岡市東平井	4	東平井天水遺跡	東平井				○				土坑、溝	20
5	山間道路	藤岡市藤岡	5	山間道路	藤岡	○	●	○	○				散布地、集落、平安水田	24
6	奥浅間古墳	藤岡市藤岡	6	奥浅間古墳	藤岡			●					円墳。古158	57
7	古191	藤岡市藤岡	7	古191	藤岡			●					古墳	
8	浅間神社古墳	藤岡市藤岡	8	浅間神社古墳	藤岡			●					前方後円墳。古192、藤岡町1号墳	9、46
9	古218	藤岡市藤岡	9	古218	藤岡			●					古墳	
10	古219	藤岡市藤岡	10	古219	藤岡			●					古墳	
11	古505	藤岡市藤岡	11	古505	藤岡			●					古墳	
12	常岡城	藤岡市藤岡	12	常岡城	藤岡				■				神田城、城039。菱形	3
13	中大塚A遺跡	藤岡市中大塚	13	中大塚A遺跡	中大塚				○	○			平安～中世道	33
14	中大塚B遺跡	藤岡市中大塚	14	中大塚B遺跡	中大塚	○			○				溝、土坑	34
15	中大塚の場遺跡	藤岡市中大塚	15	中大塚の場遺跡	中大塚				○	○			墓、その他	36
16	中大塚宮西遺跡	藤岡市中大塚	16	中大塚宮西遺跡	中大塚			●			○		集落。その他	38
17	出口遺跡	藤岡市上大塚	17	出口遺跡	上大塚			●					集落	36、49
18	上大塚水押遺跡	藤岡市上大塚	18	上大塚水押遺跡	上大塚				○	○			B下水田、A下水田	36、49
19	上大塚城	藤岡市上大塚	19	上大塚城	上大塚				■				城027	3
20	上大塚南原遺跡	藤岡市上大塚	20	上大塚南原遺跡	上大塚			●		○			集落、漆文書	4
21	古204	藤岡市下大塚	21	古204	下戸塚			●					古墳	
22	舞森B遺跡	藤岡市小林	22	舞森B遺跡	小林	○	●						散布地、集落	14
23	小林氏館	藤岡市小林	23	小林氏館	小林			■					小林館。城030	3
24	大蓮寺	藤岡市小林	24	大蓮寺	小林			○					社寺。城031	
25	藤岡東部水田址遺跡	藤岡市相岸	25	藤岡東渋水田址遺跡	小林			○					B下水田・畠	14
26	高江原遺跡	藤岡市相岸	26	高江原遺跡	相岸	○	○	○					埴輪実況通の溝、中世墓	50
27	本郷尺地遺跡	藤岡市本郷	27	本郷尺地遺跡	本郷	○							包含層、粘土探査坑	6
28	本郷花ノ木D遺跡	藤岡市本郷	28	本郷花ノ木D遺跡	本郷								未刊行	
29	本郷別所遺跡	藤岡市本郷	29	本郷別所遺跡	本郷								未刊行	
30	宮下I遺跡	藤岡市本郷	30	宮下I遺跡	本郷	○	○						本郷埴輪窯灰原	50
31	宮下IV遺跡	藤岡市本郷	31	宮下IV遺跡	本郷			○					散布地	50
32	藤岡東部地区農耕遺跡	藤岡市本郷	32	藤岡東部地区農耕遺跡	本郷			○		○			B下水田・畠	50
33	古504	藤岡市本郷	33	古504	本郷			●					古墳	
34	別所堂山古墳	藤岡市本郷	34	別所堂山古墳	本郷			●					6c後半前方後円墳。美里町38号墳。古507	9、56
35	山居院跡	藤岡市本郷	35	山居院跡	本郷				○				社寺	48
36	美九里地区2号城館跡	藤岡市本郷	36	美九里地区2号城館跡	本郷				■				城038	48
37	50包藏地	藤岡市本郷	37	(本郷下戸塚B遺跡)	本郷	○	○	○					中世水田	本書
			38	本郷下戸塚II遺跡	本郷	●	●						集落	51
			39	本郷埴輪窯址	本郷	○							6c後半埴輪窯	1
			40	古203	本郷		●						古墳	
			41	波場遺跡	本郷	●	●	●	○				集落、埴輪窯	45
			42	本郷塚原A遺跡	本郷								未刊行	
			43	本郷塚原B遺跡	本郷								未刊行	
			44	本郷塚原C遺跡	本郷	○	○	○	○				生産	26
			45	本郷下戸塚A遺跡	本郷								未刊行	
			46	本郷下戸塚B遺跡	本郷	●	●	○					古代道	26
			47	本郷下戸塚C遺跡	本郷				○				生産	26
			48	本郷花ノ木B遺跡	本郷								未刊行	
			49	本郷花ノ木B遺跡	本郷								未刊行	
			50	本郷花ノ木C遺跡	本郷								未刊行	

○遺構・遺物 ●集落 ■古墳 ■城館

図	地図掲載道路	所在地	表	表掲載道路	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	摘要	文献	
			51	本郷薬師堂道路 (小林古墳群と重複)	本郷			○					集落	未刊行	
38	芦田城	藤岡市本郷	52	芦田城	本郷					■			藤岡城、城029	56	
			53	城崩敷II道路	本郷						○		芦田城崩隣		
39	51包藏地	藤岡市本郷他	54	相伊福荷原遺跡	根岸		●	○					集落、埴輪灰原	50	
40	52包藏地	藤岡市本郷	55	宮下II遺跡	本郷		●	○					集落	50	
41	53包藏地	藤岡市本郷	56	宮下III遺跡	本郷		●	○					集落、古墳～奈良祭祀遺構	50	
42	54包藏地	藤岡市本郷					○						散布地		
43	78包藏地	藤岡市本郷					○						散布地	49	
44	93包藏地	藤岡市本郷					○						散布地	49	
45	94包藏地	藤岡市本郷	57	かね塚古墳	本郷		●						円墳、古508		
46	99包藏地	藤岡市本郷	58	本郷小里道路	本郷		○		○	○			散布地	49	
			59	本郷大神裏遺跡	本郷		○						集落	未刊行	
47	188包藏地	藤岡市本郷	60	本郷I・II根B道路	本郷		○	●	●				集落、滑石工房、小鍛冶	7	
			61	本郷I・II根B道路	本郷		○	●	●				集落、中世屋敷、弥生片	26	
48	192包藏地	藤岡市本郷	62	城崩敷道路	本郷		○						散布地、中世戸戸	39	
49	80包藏地	藤岡市小林他	63	上師食堂道路	小林		●	●	○				集落、中世墓	31	
			64	沢田遺跡	小林		●	○	○				集落、中世戸戸	38、49	
			65	舞臺道路	小林		●	●					集落、墓、城郭、金床石、鉄津	16	
			66	塙原道路	小林		○	●					集落、墓、その他の	16	
			67	舞臺C道路	塙ノ内		○	●					古墳住居		
			68	塙ノ内遺跡群	小林前		○	●	●	○			方形周溝墓、古墳、集落	16	
			69	相伊薬城遺構 (小林古墳群と重複)	根岸					■			相伊薬城址、城032	3	
50	小林古墳群	藤岡市小林他	70	藤岡市270号古墳	小林		●							29、49	
			71	藤岡市274号古墳	小林		●							27、49	
			72	古277	小林		●						S45調査		
			73	藤岡市280号古墳	小林		●							47	
			74	宮古古墳	小林		●						古281	49	
			75	藤岡市287号古墳	小林		●							47	
			76	藤岡市288号古墳	小林		●							42、49	
			77	藤岡市289号古墳	小林		●							47	
			78	小林A号古墳	小林		●						藤岡市303号古墳、7c円墳	56	
			79	藤岡市319号古墳	小林		●							47	
			80	藤岡市320号古墳	小林		●							47	
			81	藤岡市325号古墳	小林		●							47	
			82	藤岡市353号古墳	小林		●							49	
			83	古354	小林		●						S48調査		
			84	藤岡市357号古墳	小林		●							古357、周溝	30
			85	藤岡市678号古墳	小林		●							47	
			86	小林B号古墳	小林		●						7c円墳	56	
			87	小林C号古墳	小林		●						円墳	56	
			88	小林D号古墳	小林		●						7c円墳	56	
			89	本郷二子山古墳	本郷		●						前方後円墳、美九里村19号墳、古286	9、49	
			90	藤岡市301号古墳	本郷		●							47	
			91	ひようたん塚古墳	本郷		●						円墳、古333	2	
			92	中野古墳	本郷		●							古336	49
			93	藤岡市372号古墳	本郷		●							48	
			94	藤岡市374号古墳	本郷		●							48	
			95	藤岡市375号古墳	本郷		●							48	
			96	美九里村130号墳	本郷		●						前方後円墳	16	
			97	靈符殿古墳	藤岡		●							6c未前方後円墳、模様 積石室。藤岡市228号古墳、 藤岡市7号古墳	9、12、56
			98	諏訪神社古墳	藤岡		●							6c後半前方後円墳。諏 訪古墳7、古230	10、56
			99	諏訪神社北古墳	藤岡		●							6c後半円墳。古231	56

○遺構・遺物 ●集落 ●古墳 ■城館

図	地図掲載遺跡	所在地	表	表掲載遺跡	所在字	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	摘要	文献
50	野見塚古墳群	藤岡市小林他	100	藤岡市265号古墳	藤岡			●						28, 49
			101	堀之内CK-1号墳	堀之内			●					前方後円墳。藤岡町52号墳?	16
			102	堀之内遺跡群BK-1号墳	小林			●					田中古墳、藤岡町53号墳。6c後半円墳	56
			103	堀之内遺跡群FK-1号墳	堀之内			●					6c中葉前方後円墳	56
			104	堀之内FB-2号墳	堀之内			●					前方後円墳	16
			105	堀之内GR-2号墳	堀之内			●					前方後円墳	16
			106	堀之内遺跡群DK-3号墳	小林			●					7c中葉円墳	56
			107	堀之内遺跡群EK-5号墳	小林			●					7-8c円墳	56
			108	堀之内遺跡群FK-3号墳	小林			●					7-8c円墳	56
			109	堀之内遺跡群DK-4号墳(周溝墓)	小林			●					4c後半前方後円墳か	56
			110	CK-2号墳(周溝墓)	小林			●					4c未前方後円墳	56
51	野見塚古墳群	藤岡市小林他	111	古189	下戸塚			●						
52	82包藏地	藤岡市小林	112	戸塚神社古墳	下戸塚			●					6c後半前方後円墳。お熊之ま古墳・熊野山古墳、神流村1号墳、古190	9, 49, 56
53	84包藏地	藤岡市小林	113	古345	小林			●					円墳	
			114	ヘソノヤマ古墳	小林			●					円墳。藤岡市224号古墳	
54	45包藏地	藤岡市上戸塚他	115	風天神社遺跡	小林			○					散布地、土坑	14
			116	中之井遺跡	小林			○	●				平安集落・墓。範形鉢津	14
			117	上戸塚正上寺遺跡	上戸塚	○		●	○	○			集落・古墳・周溝墓	49
			118	上戸塚正上寺B遺跡	上戸塚			●	●				集落	13
			119	正上寺址	上戸塚								時期不明社寺	
			120	赤津I遺跡	上戸塚			○	○	○				13
			121	赤津II遺跡	上戸塚			○	○	○			火葬墓	13
			122	赤津III遺跡	上戸塚	○		○	○	○			包含層	13
			123	古188	下戸塚			●						
55	47包藏地	藤岡市上戸塚他	124	佐阿旁陀堂址	上戸塚					○			社寺	
			125	大塔寺	小林					○			社寺	
				(野見塚古墳群と重複)										
56	49包藏地	藤岡市上戸塚								○			散布地	
57	46包藏地	藤岡市藤岡他	126	城019	上戸塚					■			城館	
			127	株木遺跡	上戸塚	○	●	●	●	○			集落、礫石建物、官衙?	55
			128	株木B遺跡	上戸塚、下戸塚、藤岡	○	●	●	●	●			集落、古墳5。鉄財	22
			129	株木C遺跡	上戸塚		●	●	●	○			集落、火葬墓	44, 49
			130	上戸塚西原遺跡	上戸塚			○	○				火葬土坑	49
			131	上戸塚西原II遺跡	上戸塚			●					集落	56
			132	上戸塚西原III遺跡	上戸塚			●	●				集落	39
			133	小林天水遺跡	小林	○	○	○	○	●			集落、包含層	8
			134	小林天水B遺跡	小林			●	●	●			集落	43, 49
58	75包藏地	藤岡市藤岡他	135	白塙道南遺跡	藤岡	○			○				平安製鉄炉、中世墓	25
			136	上大塚刷形遺跡	上大塚								不明	40
59	76包藏地	藤岡市藤岡	137	光徳寺前遺跡	藤岡			●	○	○			散布地、集落、その他	23
			138	光徳寺裏山遺跡	藤岡		●						中世後期集落	49
			139	藤岡北山B遺跡	藤岡	○	●	○	●	●			縄文、古墳、平安集落	25
			140	(藤岡)北山B遺跡	藤岡	○	●			●			集石遺構、集落、平安小殿治	17
			141	(藤岡)北山C遺跡	藤岡	○	○						包含層	35
60	77包藏地	藤岡市藤岡											散布地	
61	79包藏地	藤岡市藤岡											散布地	49
62	81包藏地	藤岡市藤岡											散布地	

○：構造・遺物 ●：集落 ★：古墳 ■：城館

図	地図掲載遺跡	所在地	表	表掲載遺跡	所在字	旧石器	繩文	弥生	古墳	古代	中世	近世	摘要	文献
63	83包藏地	藤岡市藤岡	142	大神宮山の砦	藤岡					■			大神宮山城。城033	3
			143	古32	藤岡		●						古墳	
64	85包藏地	藤岡市相平	144	関向道路	相平		○	●					集落、墓、祭祀遺構	14
65	95包藏地	藤岡市藤岡					○	○					散布地	
66	96包藏地	藤岡市藤岡					○	○	○				散布地	49
67	97包藏地	藤岡市藤岡	145	古506	藤岡			●					古墳	
68	42包藏地	藤岡市中大塚	146	中大塚D遺跡	中大塚	○		○	○				墓。その他	35
			147	中大塚II道跡	中大塚				●				集落。その他	37, 49
			148	中大塚遺跡	中大塚			●	○				集落。中世道	5
69	185包藏地	藤岡市中大塚	149	天神塚	中大塚		●						円墳。古153	
			150	中大塚環越道跡	中大塚		●	●					集落	41
			151	中大塚環越道跡 152号古墳	中大塚		●						古152	41, 49
			152	中大塚環文時代敷石道橋	中大塚	●								56
70	72包藏地	藤岡市上大塚他	153	船川藤ノ木B道跡	船川		○	●	○				集落	44, 49
			154	船川藤ノ木道跡	船川		●		○				集落、生産	4
71	183包藏地	藤岡市船川	155	船川下天水道跡	船川		●	○					集落、墓その他	20
72	180包藏地	藤岡市東平井他	156	東平井中道B道跡	東平井	○	○	●	○				散布地、集落、社寺、墓	21
			157	傳鍛倉街道関連道	東平井				○				中世道、集落	20
			158	薬師B道跡	船川								墓その他	53
			159	薬師道跡	船川		●	●					平安～中世集落。中世社寺？墓、柿経	21
			160	南出口B道跡	船川	○							集落	53
			161	三反畠道跡	船川、東平井	●		●	●	○			南出口道跡。集落	18
73	182包藏地	藤岡市東平井				○		○	○				散布地、集落	49
74	195包藏地	藤岡市東平井	162	藤岡平地区水田址 道跡下田地区	東平井	○			○				散布地、平安水田	20
			163	矢場塙II道跡	東平井				○				平安井戸	19
			164	六反田道跡	東平井			●					集落	19
75	91包藏地	藤岡市矢場他	165	矢場塙I道跡	東平井		○	○					畑。その他	19
			166	東平井上井下道跡	東平井		●	●					集落	19
			167	松ノ木田道跡	矢場		●	●	○	○			集落	54
			168	道上I道跡	矢場	○	●	●	●				集落	15
			169	道上II道跡	矢場		●	●	●				集落	15
			170	道上III道跡	矢場		●	●	○				集落、平安水田	32, 34
			171	古503	矢場		●						古墳	
			172	道上D道跡	矢場		●	●	●	○			集落	54
76	98包藏地	藤岡市矢場	173	矢場田中道跡	矢場		●	●					集落、古墳	54
			174	矢場神明道跡	矢場				○				土坑、柱穴	54
			175	古509	矢場		●						古墳	
			176	古510	矢場		●						古墳	
77	196包藏地	藤岡市神田	177	神田上城越道跡	神田				○	○			生産?	52
78	197包藏地	藤岡市神田	178	神田下城越道跡	神田				○				散布地	52

○遺構・遺物 ●集落 ★古墳 ■城館

参考文献

- 1 尾崎喜左雄1958「古窯の研究－群馬県本郡埴輪窯址発掘報告－」『風上』第4巻2号
- 2 群馬県教育委員会1973「群馬県遺跡台帳II(西毛編)」群馬県教育委員会
- 3 群馬県教育委員会1988「群馬県の中世館」群馬県教育委員会
- 4 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「上大塚南原道路、點川畠ノ木道路」財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1989「上栗須道路/下大塚道路/中大塚道路」財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1987「本郷尺地道路」財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1989「本郷山根道路」財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 8 毛野考古学研究所2005「小林天水道路」群馬県藤岡市教育委員会
- 9 近藤義郎・編1994「前方後円墳集－東北・関東編」阿武隈書房
- 10 柴田常恵1910「上野藤岡の諏訪社古墳」『東京人類學會雑誌』288, 289号
- 11 柴田常恵1906「埴輪の製造地」『東京人類學會雑誌』246号
- 12 多野藤岡地方誌編集委員会1976「多野藤岡地方誌」藤岡市
- 13 藤岡市教育委員会2010「赤津I道跡・赤津II道跡・赤津III道跡・上戸塚正上寺B道跡・下戸塚神明道路」藤岡市教育委員会
- 14 藤岡市教育委員会1988「E 5 藤岡東部地区道路群」発掘調査報告書』藤岡市教育委員会
- 15 藤岡市教育委員会1987「E 3 道上跡」藤岡市教育委員会
- 16 藤岡市教育委員会1982「A 1 虞ノ内道路群」藤岡市教育委員会
- 17 藤岡市教育委員会1995「A 2 藤岡北山B道路」藤岡市教育委員会
- 18 藤岡市教育委員会1996「F 15 藤岡平地区道路群」藤岡市教育委員会
- 19 藤岡市教育委員会1995「F 14 藤岡平地区道路群II」群馬県藤岡市教育委員会
- 20 藤岡市教育委員会1997「F 21・F 22 藤岡平地区道路群」藤岡市教育委員会
- 21 藤岡市教育委員会1998「F 28 a 東平井中道 B 道跡 F 28 b 葉師道路」藤岡市教育委員会
- 22 藤岡市教育委員会1991「桟木B道路」藤岡市教育委員会
- 23 藤岡市教育委員会2006「光徳寺前道路」群馬県藤岡市教育委員会
- 24 藤岡市教育委員会1986「国道254号線発掘調査報告書」藤岡市教育委員会
- 25 藤岡市教育委員会1987「国道255号線発掘調査報告書」藤岡市教育委員会
- 26 藤岡市教育委員会2021「逆川沿岸地区道路群(本郷下郷C道跡、本郷下郷B道跡B地点、本郷山根B道跡、本郷山根B道跡B地点)」発掘調査報告書』藤岡市教育委員会
- 27 藤岡市教育委員会2000「市内道路VI」藤岡市教育委員会
- 28 藤岡市教育委員会2003「市内道路IX」藤岡市教育委員会
- 29 藤岡市教育委員会2005「市内道路20」藤岡市教育委員会
- 30 藤岡市教育委員会2018「市内道路24」藤岡市教育委員会
- 31 藤岡市教育委員会1985「年報」藤岡市教育委員会
- 32 藤岡市教育委員会1988「年報3」藤岡市教育委員会
- 33 藤岡市教育委員会1991「年報6」藤岡市教育委員会
- 34 藤岡市教育委員会1992「年報7」藤岡市教育委員会
- 35 藤岡市教育委員会1993「年報8」藤岡市教育委員会
- 36 藤岡市教育委員会1994「年報9」藤岡市教育委員会
- 37 藤岡市教育委員会1996「年報12」藤岡市教育委員会
- 38 藤岡市教育委員会1997「年報13」藤岡市教育委員会
- 39 藤岡市教育委員会1998「年報14」藤岡市教育委員会
- 40 藤岡市教育委員会2000「年報15」藤岡市教育委員会
- 41 藤岡市教育委員会2001「年報16」藤岡市教育委員会
- 42 藤岡市教育委員会2007「年報23」藤岡市教育委員会
- 43 藤岡市教育委員会2008「年報24」藤岡市教育委員会
- 44 藤岡市教育委員会2009「年報25」藤岡市教育委員会
- 45 藤岡市教育委員会2002「波場道跡」藤岡市教育委員会
- 46 藤岡市教育委員会1983「藤岡市道路詳細分布調査(II)」藤岡市教育委員会
- 47 藤岡市教育委員会1986「藤岡市道路詳細分布調査(V)」藤岡市教育委員会
- 48 藤岡市教育委員会1987「藤岡市道路詳細分布調査(VI)」藤岡市教育委員会
- 49 藤岡市教育委員会2009「藤岡市道路分布図2009版」藤岡市教育委員会
- 50 藤岡市教育委員会1991「藤岡東部地区道路群(III)」藤岡市教育委員会
- 51 藤岡市教育委員会2014「本郷下戸戸B道路」藤岡市教育委員会
- 52 藤岡市教育委員会2010「峯地道路・峯地道路B区・上城道跡・下城越道跡・小里道跡・糸井戸道路・飯玉道路A区・飯玉道路B区・飯玉道路C区」群馬県藤岡市教育委員会
- 53 藤岡市教育委員会1997「葉師B道跡・南北出口B道跡・大歩B道跡・東平井古墳群」藤岡市教育委員会
- 54 藤岡市教育委員会2008「矢塙神明道路・倉谷戸B道跡・矢塙田中道路・松ノ木田道跡・道上D道路」藤岡市教育委員会
- 55 藤岡市教育委員会社会教育課文化財保護係1984「桟木道路」藤岡市建設部都市施設課
- 56 藤岡市史編さん委員会1993「藤岡市史 資料編 原始・古代・中世」藤岡市
- 57 藤岡市史編纂委員会1957「藤岡町史」藤岡市役所

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 調査区の概要と基本土層

1 調査区の概要

50蔵地(本郷下海戸B遺跡)(以下、本調査区)は、群馬県藤岡市本郷字下海戸の笹川右岸に所在している。藤岡市の北部に位置する藤岡台地の中央に存在する独立丘陵である庚申山丘陵と、丘陵の東縁を北流する笹川を間に挟み隣接する本調査区は、ナイフ形石器や槍先形尖頭器が出土し旧石器時代から平安時代にいたる遺跡として知られる山間遺跡や、藤岡市屈指の古墳群とも呼ばれる小林古墳群、本郷埴輪窯址、滑石工房や小鍛冶遺構が検出された本郷山根遺跡、大神宮山の砦、根岸築城遺構などの、旧石器時代から中世にいたる多くの遺跡を取り囲まれた中に存在している。また藤岡市教育委員会によって平成25年から平成26年にかけて発掘調査された本郷下海戸遺跡の西に、道路1本隔てて隣接している。

本郷下海戸遺跡は藤岡市淨法寺から藤岡市下戸塚にいたる神流川左岸地域の、川沿いに点在する大小の遺跡包蔵地の一画を占める遺跡とされる。平成26年3月に藤岡市より刊行された発掘調査報告書(藤岡市教育委員会2014『本郷下海戸遺跡』)によれば、本郷下海戸遺跡は古墳時代中期から奈良・平安時代にかけての集落が検出された遺跡であり、10世紀以降は水田としての土地利用がなされたと考察されている。

本調査区は遺構確認面から水田が検出され、この水田面の下からも遺構が検出された。本調査区から検出された遺構は、溝2条、畦畔2条、竪穴状遺構1基、土坑2基、ピット3基である。掘立柱建物や竪穴建物といった集落に直結する遺構は確認されていないが、集落の中心部と笹川に挟まれた、本郷下海戸遺跡が構成する集落の周辺部であったと推察される。本報告書作成に際し、現代の客土である表土層の直下から検出された、発掘調査時点で水田土壤と判断された層に覆われた遺構面を水田面(1面)とし、この下位から検出された遺構を一括して水田面下(2面)の遺構とした。

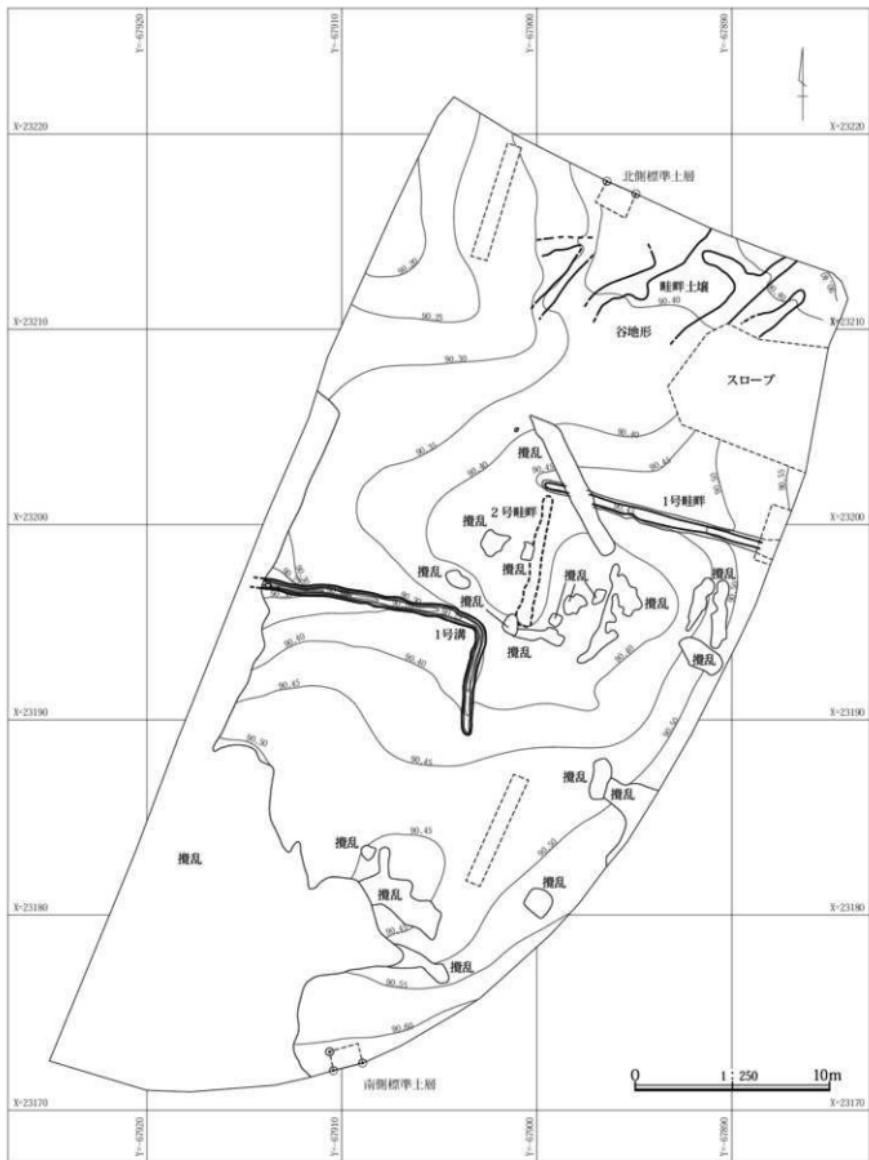
2 基本土層

本調査区は現地表面から標高90.6m前後までの、深さにしておよそ1mほどが土地改良に由来するローム質の客土に覆われていた。この客土である黄褐色の表土層の直下からAs-Bを少量含む褐灰色の水田土壤が確認された。なお、笹川寄りの調査区西部は、南西部を中心に過去の河川護岸工事などによって既に削平され、旧状をとどめていなかった。

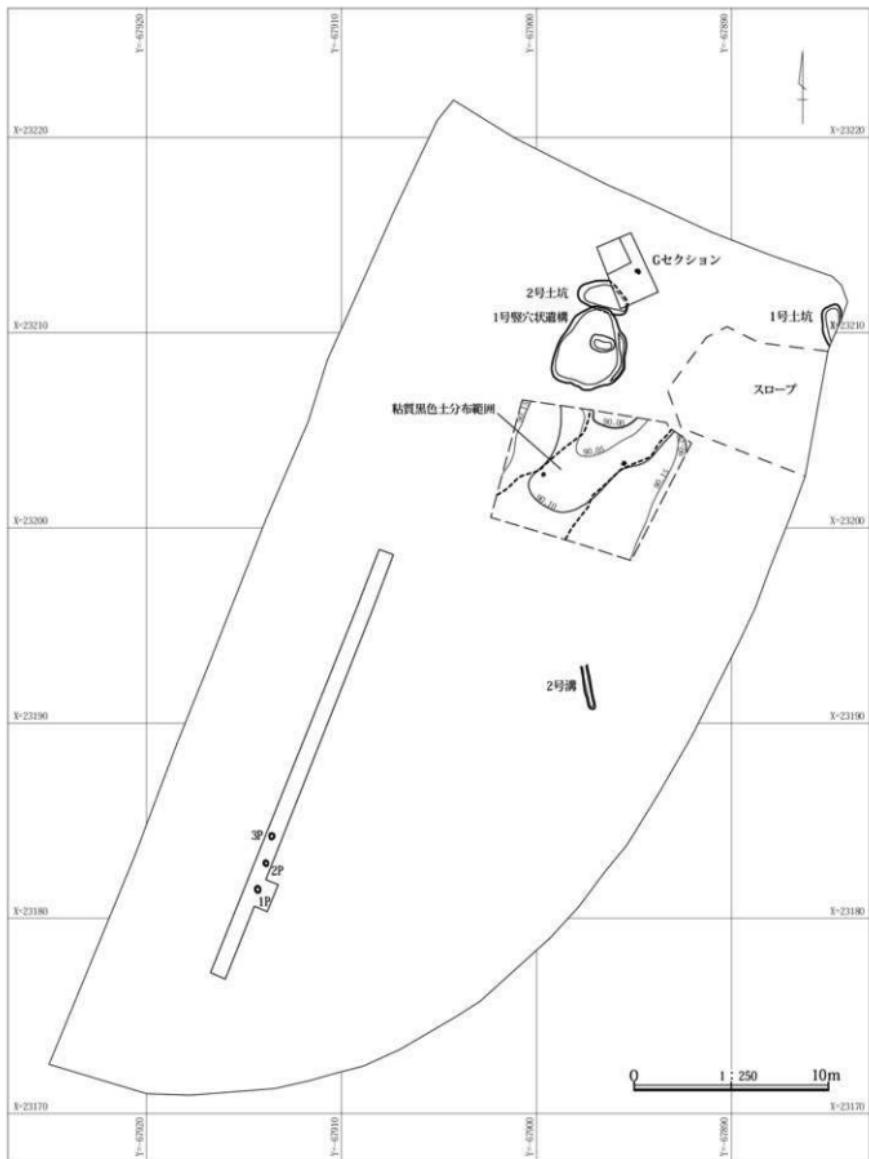
確認された本調査区の基盤層は、下位に小角礫を含む褐灰色の粘土層であり、この層の上位から灰白色のシルト層が検出されている。なお、調査区の北端では褐灰色の粘土層と灰白色のシルト層の間から灰白色の砂層と褐灰色の砂礫層が検出されたが、調査区の南端からは検出されていない。

調査区南端から得られた南側標準土層(西面)にみられる流路状の地形や、調査区北側にみられる谷地形などから、本調査区は笹川旧河道の東辺(右岸)付近に位置していたと推測される。なお国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の全国デジタル土壤図(<https://soil-inventory dc.affrc.go.jp>)に基づくと、本調査区の立地する土地の土壤は「細粒質普通低地水田土」であり、東接する本郷下海戸遺跡付近の土壤は「細粒質湿性褐色低地土」とされる。いずれも「自然堤防や扇状地に典型的に分布する土壤」とあるが、本調査区よりも東接する本郷下海戸遺跡側の土地のほうが畑地や集落への適性が高いとされている。また藤岡市教育委員会により実施された、本郷下海戸遺跡の発掘調査に先立つ試掘・確認調査によれば、調査地の東西から水成ロームが検出され、本郷下海戸遺跡は東西を低地に挟まれた微高地上に立地していたと判断されている。

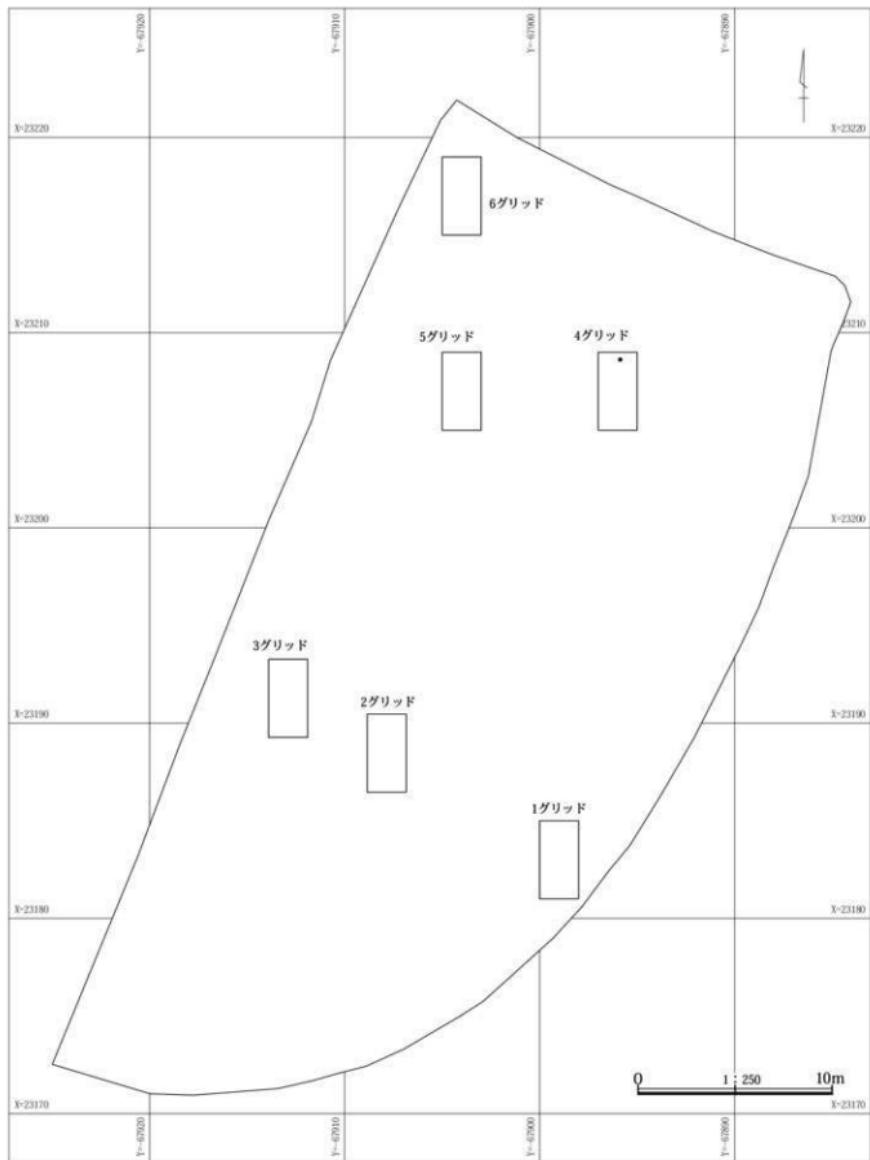
本調査区の遺構確認面の指標とされたAs-B混じりの褐灰色の水田土壤の下位には水田面の畦畔を形成している灰黃褐色土の堆積が位置し、土師器が検出された砂礫混じりの黒褐色土層を間に挟み基盤層である砂礫層に至っている。



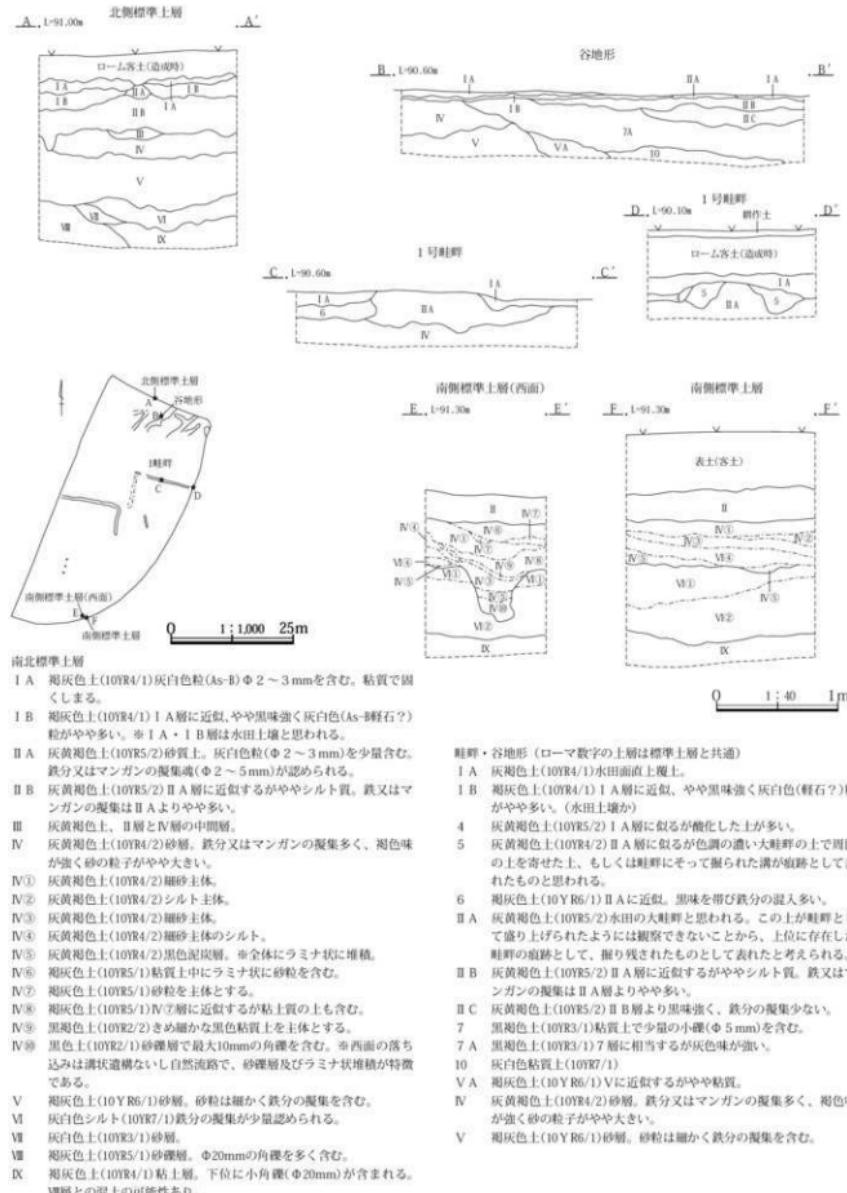
第7図 水田面(1面)



第8図 水田面下(2面)



第9図 グリッド配置



第10図 基本土層1

第3章 確認された遺構と遺物

参考資料として東に隣接する本郷下海戸遺跡の基本層序図を付した。同遺跡はその南部と北部で堆積の様相が若干異なっている。V層・Vlb層は遺跡の南部で検出され、III層・IV層・VIa層は遺跡の北部で検出されている。本調査区との際立った差異は、表土にAs-Bが混在する点と、下位に砂礫層がなく基盤層とされるローム層が存在する点であろう。

参考資料

藤岡市教育委員会2014「本郷下海戸遺跡」藤岡市教育委員会
独立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構「全国デジタル土壤図」(<https://soil-inventory dc.affrc.go.jp/>)

本郷下海戸遺跡基本層序図(西側)

I 表土層	I 表土層。場所により As-B を含む。
II 暗褐色土層	II 暗褐色土層。しまり良く、粒子細かく粘性やや強い、As-B を含み、鉄分を含む。
III 黒褐色土層	III 黒褐色土層。しまり良く、粒子細かく粘性やや強い。
IV 暗褐色土層	IV 暗褐色土層。しまり良く、粒子細かく粘性強い。ローム粒子を少量含む。
V 暗黃褐色土層	V 暗黃褐色土層。しまり良く、粒子細かく粘性強い。
VIa 黃褐色ローム粘土層	VIa 黃褐色ローム粘土層
VIb 灰白色粘土層	VIb 灰白色粘土層

第11図 基本土層2

第2節 水田面

1 水田面の概要

造成時の客土である表土層直下から、As-B混じりの褐灰色土層が検出され、調査所見により水田土壤に比定されている。この層を指標として水田面(1面)を設定した。水田面は笛川の上流側に当たる南東部がわずかに高く、中央部北寄りには笛川に向かって谷に向く緩やかな谷状の地形が存在し、調査区北端は谷から続く緩やかな高まりとなっている。

この谷と調査区南東の微高地との境となる場所の、褐灰色の水田土壤と思われる土層の下から溝1条と畦畔2条が検出されている。またこの2種の遺構から浅い谷を隔てた調査区北部の客土層の下からは、中央部で検出された畦畔と同質の土の筋状の露頭が確認されており、調査所見によれば南の畦畔とはやや時期を異にする畦畔の痕跡と判断されている。

2 検出された遺構

(1) 1号溝(第12図、PL. 2)

検出位置 X=26,189 ~ 26,198, Y=-67,902 ~ -67,915、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 東西に長い鉤形を呈する。その各部の長さと走向は東から順に、5.33m N-7-E、(11.88)m N-78-Wと続き調査区外にいたる。断面は弧状を呈する。

規模 (13.68)×0.65×0.03 ~ 0.29m、南東端の底面標高90.34m、北西端の底面標高89.95m、標高差0.39mを測る。

主軸方位(度) N-54-W

埋没土 As-Bを含む褐灰色土に覆われる。

重複 なし

遺物 資料化には至らなかったが、陶器や磁器、在地系土器の破片と土師器片などが出土している。

所見 区画溝に類する遺構と目される本遺構の年代は不明であるが、調査所見はその帰属時期を中世とする。埋没した本遺構の遺構面を覆う埋没土は水田面直上の埋没土と同質のため、本遺構は水田と同時期の遺構ではあるが、やや先行し、水田域の拡張とともに水田下に埋没したと推察される。

(2) 水田

鉤の手元に位置した2条の畦畔が調査区中央部の東寄りの地点から検出されている。この2条の畦畔に囲われた場所は標高90.38m前後の平坦地となっており、水田の1区画を構成したと推測される。

この水田区画とは浅い谷をはさんで北側に位置する微高地から、畦畔の構築に用いられている土壤と同質の土壤の帯状露頭が4条ほど確認されている。調査所見によれば、やや時期を異にする畦畔の痕跡と想定されている。

a 1号畦畔(第13,14図、PL. 3)

検出位置 X=26,198 ~ 26,203, Y=-67,887 ~ -67,900、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 やや南下がりに東西一直線に位置し、東端は調査区外に及ぶ。

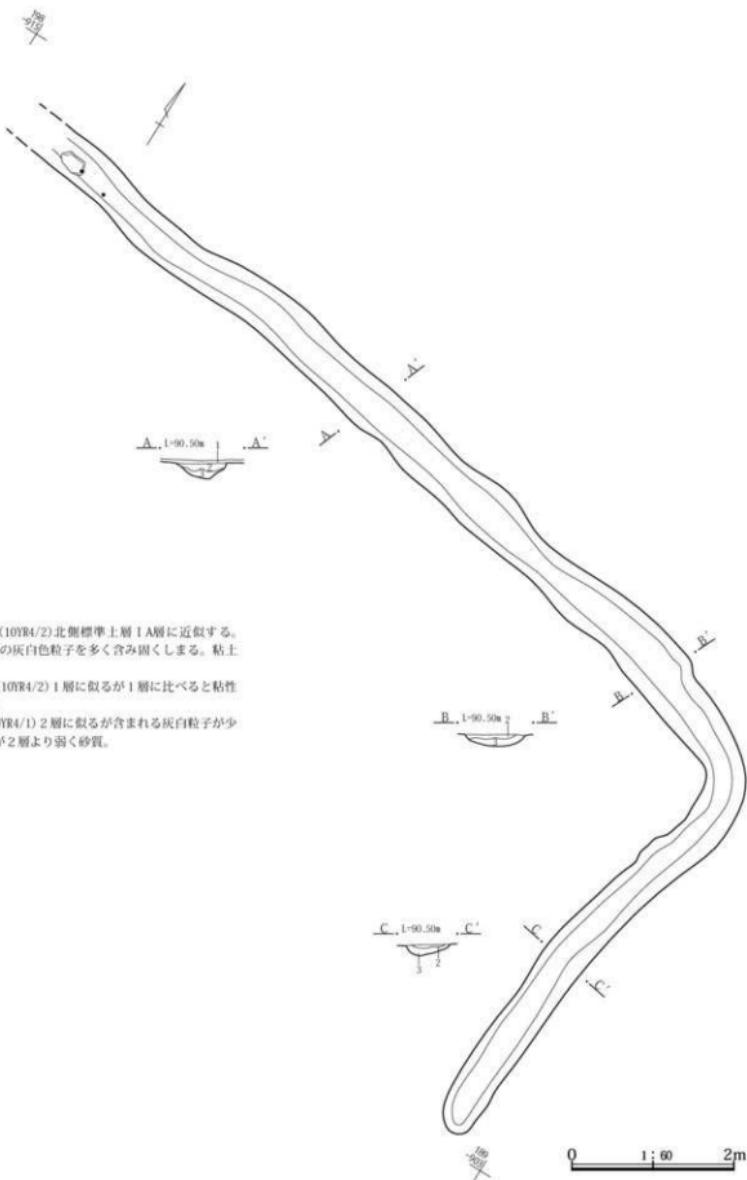
規模 (12.50)×0.58 ~ 1.07×(0.02) ~ 0.15m

主軸方位(度) N-84-W

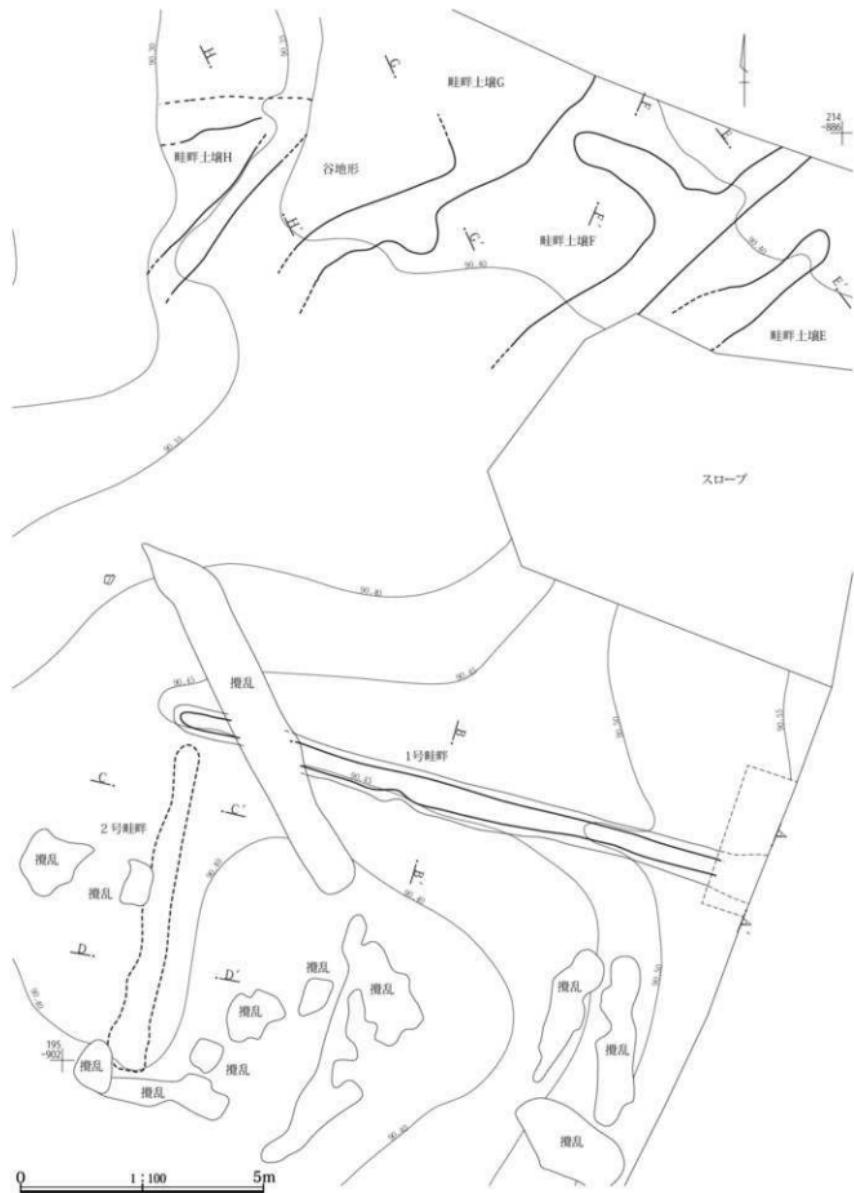
埋没土 As-Bを含む粘質の褐灰色土に覆われる。

重複 なし

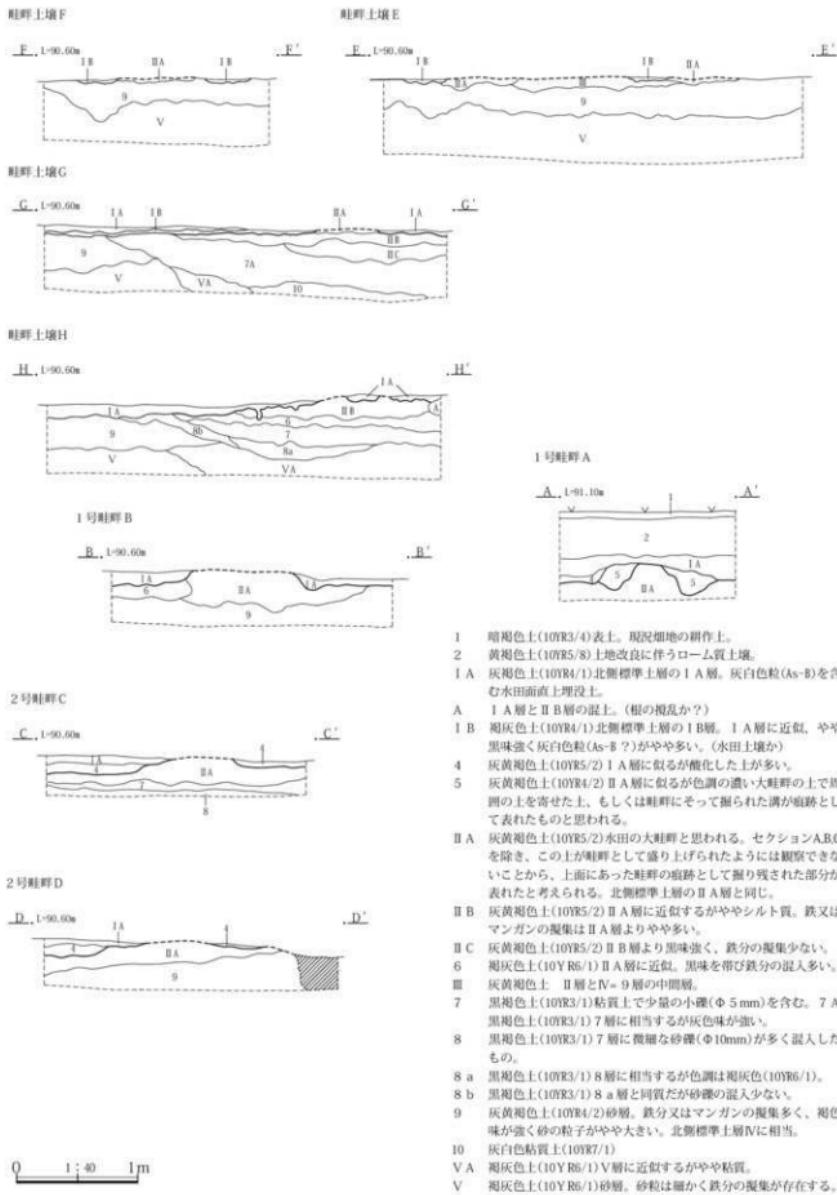
1号溝



第12図 1号溝



第13図 水田 1



第14図 水田2

遺物 なし

所見 本遺構の年代は不明であるが、調査所見はその帰属時期を中世とする。畦畔を構成する灰黄褐色土を覆う土壌は部分的に2層に識別されている。水田土壌と考えられるこの層のうち上層のものは、1号畦畔を覆い隠しその上に堆積している状態が1号畦畔の東端側で確認されており、上層と下層の水田土壌はそれぞれ時期を異にする可能性が高い。

b 2号畦畔(第13.14図、PL. 4)

検出位置 X=26,194 ~ 26,202, Y=-67,899 ~ -67,902、調査区中央部、1号畦畔西端の南側、1号畦畔に直交する位置から検出されている。

形状等 南北一直線に連なった、1号畦畔に用いられている土と同質の土の露頭が確認された。

規模 6.76×0.41 ~ 0.81×(0.01) m

主軸方位(度) N-12-E

埋没土 As-Bを含む粘質の褐灰色土に覆われる。

重複 なし

遺物 図化には至らなかったが、土師器片が出土している。

所見 本遺構の年代は不明であるが、調査所見はその帰属時期を中世とする。1号畦畔と同時期の遺構と推測される。1号畦畔と2号畦畔に囲まれた部分は標高90.37 ~ 90.39mの平坦面となっており、水田のI区画を構成したと推測される。2号畦畔北端は1号畦畔西端に0.2m程離れて位置しており、水口の存在が予想される。本遺構の西側には標高90.32m前後を勤床とする水田区画が存在した可能性がある。

c 畦畔土壤(第13.14図、PL. 4, 5)

検出位置 X=26,209 ~ 26,215, Y=-67,886 ~ -67,901、調査区北部に位置する。

形状等 東に50度ほど傾いた、不整形な帯状の露頭が4条検出されている。

規模 14.14×6.34mの範囲から確認されている。

主軸方位(度) 分布範囲N-77-W、帯状の露頭N-39 ~ 59-E

埋没土 北側標準土層IA層と同じ灰白色粒(As-B)を含む灰褐色土の間から灰黄褐色の畦畔の土壤が表れており、この露頭自体は表土層直下に位置する。畦畔土壤を覆う土は、1・2号畦畔同様に北側標準土層のIA層の

土であるが、1・2号畦畔のIA層の下に部分的に存在していた灰黄褐色土は検出されておらず、部分的に褐灰色のIB層が検出されている。

重複 なし

遺物 出土層位不明でもあり図化には至らなかったが、土師器片が出土している。

所見 本遺構の年代は不明であるが、調査所見はその帰属時期を中世とする。1・2号畦畔の畦畔を構成するII A層は調査区内に普遍的な存在とは言えず、調査区内の特定範囲に限定して堆積していると推察される。なお調査区北側の一画において、この土を用いて畔としたのか、畔としてまた床土とするためにこの土を用意したのかを判断する根拠となる資料は得られていない。

第3節 水田面下

1 水田面下の概要

水田面(1面)の下位に位置する遺構を一括して水田面下(2面)の遺構とした。水田面下に帰属する遺構としては、竪穴状遺構1基、溝1条、土坑2基とピット3基が確認されている。

1号土坑は水田面の指標としたAs-Bを含む灰黄褐色土の直下から検出されているが、As-Bの一次堆積を埋没土に持つことから水田面下の遺構とした。また2号土坑もまたAs-Bを含む灰黄褐色土直下から検出されているが、埋没土に白色粒子を含んでいないことから水田面下の遺構とした。

また遺構には含まれないのであるが、発掘調査に際し編年観の根拠とされた遺物出土地点2か所を添えた。

2 検出された遺構

(1) 1号竪穴状遺構(第15.19図、PL. 5, 6, 9)

検出位置 X=26,207 ~ 26,212, Y=-67,895 ~ -67,900、調査区北部中央付近に位置する。

形状等 平面形は不整形で、底部は凹凸あるも平坦、北寄り3分の2程度の範囲から埋め戻し跡とみられる掘り込みが確認されている。また中央部東寄りの地点に掘り込みが残されている。

規模 4.35×3.63×0.42m

主軸方位(度) N-16-E

埋没土 鉄分の混入するシルト質の褐色土に覆われる。

重複 2号土坑を切る。

遺物 在地系土器内耳鍋(1)のほか、図化には至らなかったが、砂目の残る平底底部片を含む数点分の在地系土器の破片と土師器片が検出されている。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中世、もしくはそれ以降に比定される。2号土坑よりも新しい。

(2) 2号溝(第15図、PL. 6)

検出位置 X=26,190 ~ 26,194、Y=-67,897 ~ -67,898、調査区中央部東寄りの地点から検出されている。

形状等 遺構断面は弧を描き、南端の底面標高90.38m、北端の底面標高90.33m、標高差0.05mを測る。

規模 (2.64) × 0.36 × 0.01 ~ 0.09m

主軸方位(度) N-13-W

埋没土 黏性ある黒色土と地山の黄褐色土粒との混土に覆われており、その上にAs-Bの一次堆積が存在する。

重複 なし

遺物 図化には至らなかったが、土師器片が出土している。

所見 本遺構の年代は不明であるが、水田面の遺構(1・2号畦畔からなる水田区画)によりその北半が消滅したと推測されることから、中世以前に帰属する可能性も認められる。

(3) 土坑

a 1号土坑(第16図、PL. 6)

検出位置 X=26,209 ~ 26,212、Y=-67,884 ~ -67,886、調査区北東隅に位置する。

形態等 東半が調査区外に及ぶため平面形は確定できないが、矩形の可能性が認められる。底面のみの検出のため断面形は不明である。

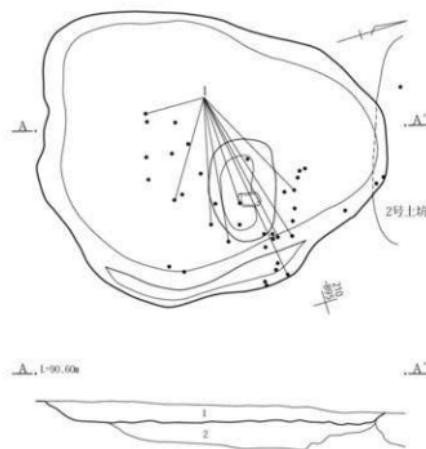
規模 (1.96) × 1.03 × 0.15m

主軸方位(度) N-16-W

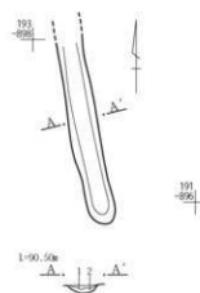
埋没土 黏性ある黒色土と地山の黄褐色土粒との混土に覆われており、その上にAs-Bの一次堆積が存在する。

重複 なし

1号竪穴状遺構

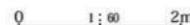


2号溝



2号溝

- 1 褐灰色土(10YR5/1)細砂粒を主体とし、鉄分の凝集が認められる。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)細砂粒を主体とし、鉄分の凝集あり。



第15図 1号竪穴状遺構、2号溝

遺物 なし

所見 本遺構の年代は、埋没土から平安時代に比定される。

b 2号土坑(第16図、PL. 6, 7)

検出位置 X=26,210 ~ 26,213, Y=-67,895 ~ -67,898,

調査区北部中央付近に位置する。

形状等 偏円形と思われる平面形であり、平坦な底部を有する。

規模 2.66×(1.56)×0.80m

主軸方位(度) N-69-W

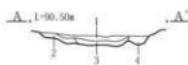
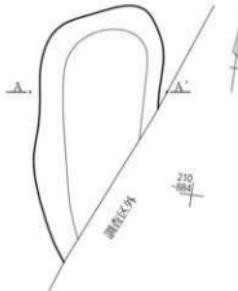
埋没土 地山の黒褐色土ブロックを含む灰黄褐色土に覆われる。

重複 1号竪穴状遺構に切られる。

遺物 図面には至らなかったが、底面および埋没土から土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は不明であるが、1号竪穴状遺構に先行することから、中世以前に比定される。埋没土にAs-Bの混入が見られないため、平安時代に帰属する可能性もある。

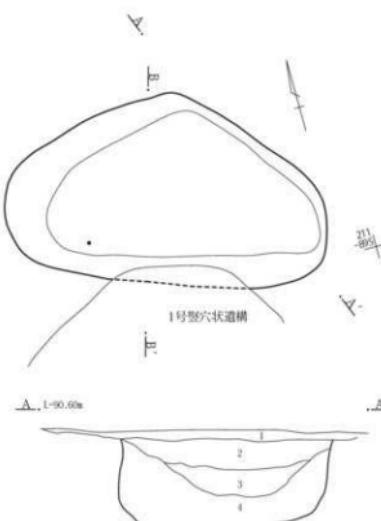
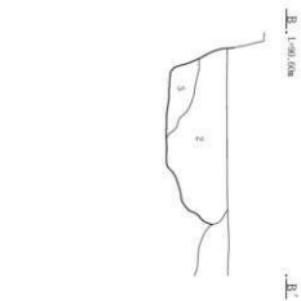
1号土坑



1号土坑

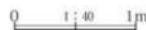
- 1 As-B、軽石一次堆積上。下位に灰層(10YR5/1褐色)1~2 mmをともなう。
- 2 黏性ある黒色土と地山の黄褐色土粒との混土。
- 3 2に近似するが黒色土の割合が多い。
- 4 地山の黄褐色土の二次堆積土。

2号土坑



2号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)北側標準上層ⅠA層に似るが、ⅠA層より顕著に進んでいる。粘土質で固くしまり、φ2~3 mmの灰白色粒子を含む。2号土坑はⅠ層下で検出された。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)Ⅰ層に見られた白色粒子はなく、地山の黒褐色土ブロック(Φ20~30mm)を斑状に含み固くする。粘土質のⅡ層。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)Ⅱ層に似るが層中に砂粒を含む土層。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)Ⅱ層に似るが砂粒を少し含む。
- 5 黒色粘土と褐灰色粘土の混土。



第16図 土坑

(4) ピット

調査区南部の水田面の0.2m下から、等間隔に一列に並んだ、埋没土をeschくする3基のピットが検出された。ピット3基を一群としたときの全長は2.85m、主軸方位(度)N-15-Eを測る。またピット相互の間隔は1.41mと1.40m(平均1.4m)であり、属性時期は不明であるが掘立柱建物の東辺を構成する可能性が認められる。

a 1号ピット(第17図、PL. 7)

検出位置 X=26,181 ~ 26,182、Y=-67,914 ~ -67,915、調査区南部に位置する。

形状等 平面形は長円形を呈し、底面は弧状を呈すが、底面のみの検出であり断面形は不明である。

規模 0.36×0.29×0.19m

主軸方位(度) N-20-W

埋没土 褐灰色の粘質土により埋没している。

重複 なし

遺物 なし

所見 本遺構の年代は不明であるが、調査所見によれば古墳時代から平安時代と推定されている。

b 2号ピット(第17図、PL. 7)

検出位置 X=26,182 ~ 26,183、Y=-67,913 ~ -67,915、調査区南部に位置する。

形状等 平面形は偏円形を呈し、底面は弧状を呈すが、底面のみの検出であり断面形は不明である。

規模 0.31×0.27×0.06m

主軸方位(度) N-17-W

埋没土 褐灰色の粘質土により埋没している。

重複 なし

遺物 なし

所見 本遺構の年代は不明であるが、調査所見によれば古墳時代から平安時代と推定されている。

c 3号ピット(第17図、PL. 7)

検出位置 X=26,184 ~ 26,185、Y=-67,913 ~ -67,914、調査区南部に位置する。

形状等 平面形は偏円形を呈し、底面は逆台形を呈するが、底面のみの検出であり断面形は不明である。

規模 0.34×0.27×0.06m

主軸方位(度) N-14-E

埋没土 褐灰色の粘質土により埋没している。

重複 なし

遺物 図化には至らなかったが、高杯の脚部と思われる土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は不明であるが、調査所見によれば古墳時代から平安時代と推定されている。

(5) 遺構外遺物出土地点

a 2面Gセクション(第18,19図、PL. 8, 9)

検出位置 X=26,211 ~ 26,216、Y=-67,893 ~ -67,897、調査区北部、畦畔土壤Gの下位に位置する。

形状等 長方形トレンチの底面から遺物が検出された。

規模 3.37×2.09m

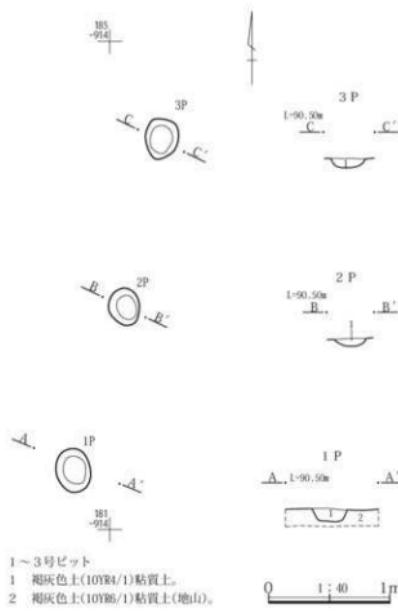
主軸方位(度) N-19-E

埋没土 粘質の黒褐色土と灰白色粘質土の境界付近から遺物が検出された。

重複 なし

遺物 器表の摩滅した複合口縁の土器器(2)が出土している。

1~3号ピット

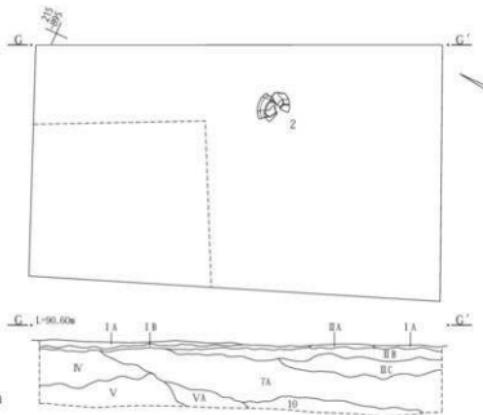


第17図 ピット

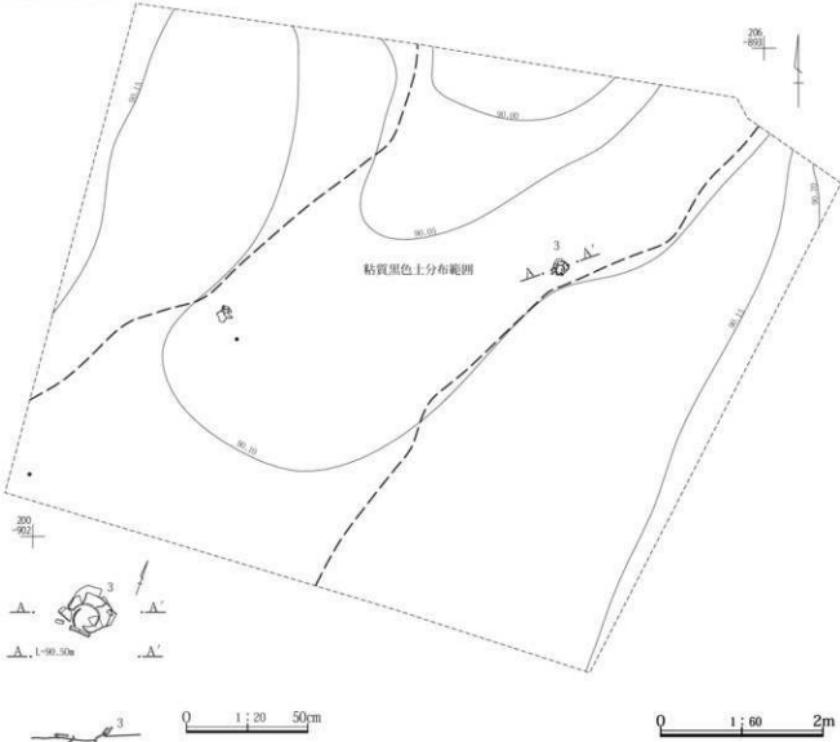
第3章 確認された遺構と遺物

- 2面Gセクション
 I A 細灰色土(10YR4/1)灰白色粒(軽石)Φ 2 ~ 3 mmを含む。粘質で固くしまる。
 II A 灰黄褐色土(10YR5/2)砂質上。灰白色粒(Φ 2 ~ 3 mm)を少量含む。鉄分又はマンガンの凝集塊(Φ 2 ~ 5 mm)が認められる。
 II B 灰黄褐色土(10YR5/2) II A層に近似するがややシルト質。鉄又はマンガンの凝集塊は II A 層よりやや多い。
 II C 灰黄褐色土(10YR5/2) II B 層より黒味強く、鉄分の凝集少ない。
 7 A 黒褐色土(10YR3/1)鞋底土壤H(谷地形)7層(小礫を含む粘質土)に相当するが灰色味が強い。
 10 灰白色粘質土(10YR7/1)
 VA 細灰色土(10YR6/1) V層に近似するがやや粘質。
 IV 灰黄褐色土(10YR4/2)砂層。鉄分又はマンガンの凝集多く、褐色味が強く砂の粒子がやや大きい。
 V 細灰色土(10YR6/1)砂層。砂層は細かく鉄分の凝集が存在する。

0 1:40 1m



粘質黒色土分布範囲



第18図 遺構外遺物出土地点

所見 調査所見によれば粘質黒色土直下の砂礫層上面から出土とあるが、遺物取り上げ時の写真からは、黒褐色土層下位の灰白色粘質土層中から検出されたように見受けられる。

b 粘質黒色土分布範囲(第18,19図、PL. 8, 9)

検出位置 X=26,198 ~ 26,207, Y=-67,892 ~ -67,903,
調査区中央北寄りに、1号畦畔の下位、調査区北部の谷地形の下位に位置する。

形状等 带状に分布している。

規模 $(8.98) \times 2.73 \sim 4.01\text{m}$

主軸方位(度) N-56-E

埋没土 粘質黒色土層下位の砂礫層から遺物が検出された。

重複 なし

遺物 土師器甕(3)のほか、S字状口縁台付甕の破片などの土師器片と、数点ではあるが在地系と思われる土器片が出土している。

所見 当該の粘質黒色土層は南北の標準土層地点では未検出であるが、標準土層II層と同IV層の間に相当し畦畔・

谷地形7層に相当する。この層直下の砂礫層から古墳時代前期の土器が出土し、調査所見によれば砂礫の堆積状況から河川の氾濫に伴いもたらされたものと推測されている。

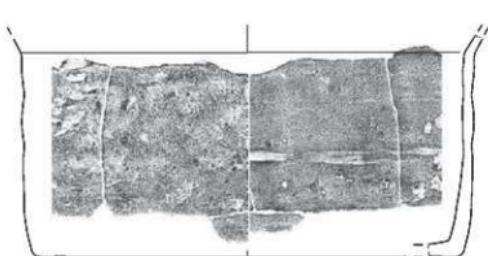
第4節 出土遺物

資料化し、図化に至った遺物は下図の3点にとどまつたが、この他に251片(2.8kg)の資料が検出されている。このうちで数量比の6割は土師器、重量比の6割は在地系土器の破片である。これに次ぐのは陶器や磁器であるが、数量比でも1割強、重量比では1割を下回っており、この他の遺物はすべて合わせても数%に満たない程度の量である。

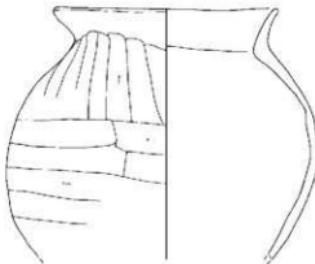
在地系土器の破片は主に1号竪穴状遺構と1号溝の出土遺物であり、土師器の破片の多くは畦畔土壤や粘質黒色土分布範囲から出土している。遺構や層位の帰属時期の相違が遺物の出土傾向に反映されたと推察される。

(第19図、PL. 9)

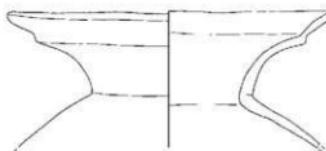
1号竪穴状遺構



粘質黒色土分布範囲



2面Gセクション



0 1:3 10cm

第19図 出土遺物

第3章 確認された遺構と遺物

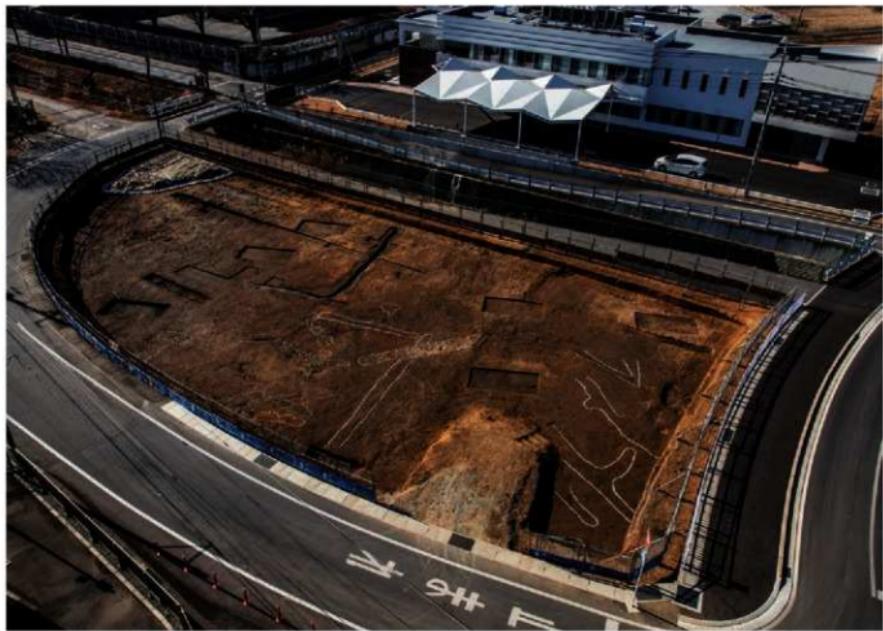
第2表 遺物観察表

種類 PL.No.	種類 No.	出土位置 在地系上器 内耳鏡	出土位置 残存率 底面 底部	計測値 口 底 26.0	胎土/焼成/色調 石材・素材等 褐色//	成形・整形の特徴 還元炎焼成で器壁薄い。底部の残存が少ないが、平底と推定される。	備考 15世紀後半
第19回 PL.9	1	1号型穴状遺構 内耳鏡	1号型穴状遺構 底面 底部	口 底 13.5 19.0	多量の繊砂粒(含 岩含む)/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへラナデ。 器面摩滅のため単位不明。口縁部の形状はやや歪む。	
第19回 PL.9	2	上師器 甕	粘質黒色土部分 甕 口縁部-胴部片	口 19.8	繊砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削りか。器面摩滅のため単位不明。内面の整形も器面摩滅のため不明。	
第19回 PL.9	3	上師器 甕	2面セラミック 口縁部-胴部上 位	口 19.8			

第3表 木掲載遺物

種類	No.	上師器		須恵器		在地系		陶器・磁器		真		その他		備考
		片	g	片	g	片	g	片	g	片	g	片	g	
1号型穴状遺構	No. 1					1	36.5							
	No. 2					1	44.7							
	No. 4					1	34.3							
	No. 5					1	25.2							
	No. 9					1	283.5							
	No. 10					1	15.4							
	No. 12					1	33.3							
	No. 13					1	7.4							
	No. 15					1	149.8							
	No. 16					1	97.7							
	No. 19					1	6.4							
	No. 20					1	47.5							
	No. 21					1	29.9							
	No. 23					1	15.1							
	No. 24	3	10.0											
	No. 25					1	5.4							
	No. 27					1	51.1							
	No. 33					1	9.6							
	No. 35					1	91.3							
	No. 36					1	6.1							
	No. 37					1	4.8							
	一括	17:	22.2			26	344.9							
1号溝	No. 1	1	1.9			1	19.3	1	4.1					
	No. 2					1	4.7							
	一括					1	7.7	1	1.6					
2号溝		1	6.6											
2号土坑	No付	1	5.1											
	一括	1	13.6											
3号ビット		1	3.1											
軸附土壤C		16	103.7											
軸附土壤G		9	31.5											
粘質黒色土範囲	No. 2	3	42.8											
	No. 3	1	70.5											
	No. 4	12	76.2											
	一括	56	339.2			4:	26.4							
1号グリッド		1	15.2			1	14.0	1	11.3					
3号グリッド		2	1.9			1	5.7	2	13.4					
4号グリッド	No付					1	84.6							
		2	4.6	1	1.2	1	12.7							
5号グリッド								3	29.9					
6号グリッド								3	7.1					
1面		19	84.3	2	15.8	9	152.6	20	117.4	1	45.8	1	2.3	その他は土人形片
塊瓦								1	13.2			2	16.3	その他は石けりガラス片(12.6g)と人形の胸(3.7g)
合計		146	832.4	3	17.0	66	1668.0	32	198.0	1	45.8	3	18.6	251片 2779.4g

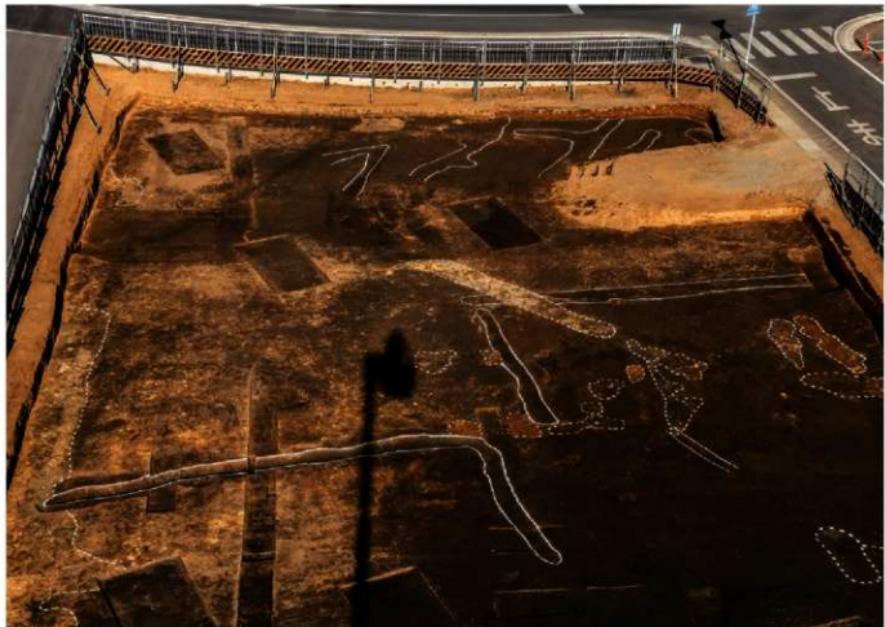
写 真 図 版



1 調査区全景(東から)



2 調査区全景(北から)



1 調査区北部(南から)



2 1号溝(東から)



3 1号溝土層断面A(東から)



4 1号溝土層断面B(東から)



5 1号溝土層断面C(東から)



1 水田（南から）



2 1号畦畔・2号畦畔（東から）



3 1号畦畔（南東から）



4 1号畦畔土層断面A（西から）



5 1号畦畔土層断面B（北から）



1 2号畦畔(東から)



2 2号畦畔土壌断面C(南から)



3 畦畔土壌(東から)



4 畦畔土壌E・F(東から)



5 畦畔土壌G・H(北から)



1 畑畔土壤E土層断面(南西から)



2 畑畔土壤F土層断面(西から)



3 畑畔土壤G土層断面(南西から)



4 畑畔土壤H土層断面(北西側、西から)



5 畑畔土壤H土層断面(中央、西から)



6 畑畔土壤H土層断面(南東側、西から)



7 1号窓穴状遺構(西から)



8 1号窓穴状遺構遺物出土状態(東から)



1 1号竪穴状遺構土層断面(北側、西から)



2 1号竪穴状遺構土層断面(南側、西から)



3 2号溝(南西から)



4 2号溝土層断面(南から)



5 1号土坑(西から)



6 1号土坑土層断面(北から)



7 2号土坑(南西から)



8 2号土坑土層断面A(南から)



1 2号土坑土層断面B(西から)



2 1～3号ピット(南から)



3 1号ピット(南から)



4 1号ピット土層断面(南から)



5 2号ピット(南から)



6 2号ピット土層断面(南から)



7 3号ピット(南から)



8 3号ピット土層断面(南から)



1 2面Gセクション遺物出土状態(南西から)



2 2面Gセクション出土遺物(南西から)



3 粘質黒色土分布範囲(東から)



4 粘質黒色土分布範囲(北東から)



5 粘質黒色土分布範囲出土遺物(西から)



6 北側標準土層(南から)



7 南側標準土層西面(東から)



8 南側標準土層(北から)

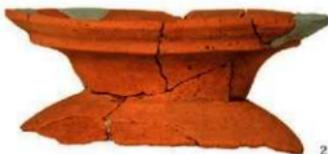
出土遺物

1号豎穴状遺構



1

2面Gセクション



2

粘質黒色土分布範囲



3

報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	ごじゅうほうぞうち ほんごうしもがいどびいいせき
書名	50包蔵地(本郷下海戸B遺跡)
副書名	藤岡特別支援学校体育館整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	699
編著者名	佐藤元彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	令和4年2月18日
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	ごじゅうほうぞうち ほんごうしもがいどびいいせき
遺跡名	50包蔵地(本郷下海戸B遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんふじおかしほんごう
遺跡所在地	群馬県藤岡市本郷地内
市町村コード	10209
遺跡番号	包050
北緯(世界測地系)	361401
東経(世界測地系)	1390440
調査期間	20210101-20210131
調査面積	1,344
調査原因	特別支援学校整備
種別	集落/生産
主な時代	中世
遺跡概要	平安—土坑1 中世—竪穴状遺構1+溝1+水田1 不明—溝1+土坑1+ピット3
特記事項	中世の水田が確認された。
要約	本郷下海戸遺跡の西に隣接する、集落周辺部の調査。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第699集

50包藏地(本郷下海戸B遺跡)

藤岡特別支援学校体育館整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和4(2022)年2月14日 発行

令和4(2022)年2月18日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県邑楽市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

自刷／ジャーナル自刷株式会社

